

浪岡町埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 第15集

# 源常平遺跡発掘調査報告書

一個人住宅建築に係る緊急発掘調査一

平成16年度  
浪岡町教育委員会



## 序

これまで浪岡町では、文化財関連事業が多岐にわたり実施されてきております。

国史跡浪岡城跡を史跡公園とするための環境整備事業と整備事業に伴う発掘調査を中心とし、様々な開発行為に即した緊急発掘調査などです。本調査報告書は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「源常平遺跡」の一部に住宅を新築する計画が持たれたため、記録保存を行うために発掘調査を行った成果です。

源常平遺跡は 15 年前の昭和 52 年度に、東北縦貫自動車道の建設に伴い青森県埋蔵文化財調査センターが発掘調査を行い、縄文時代晚期や平安時代の建物・遺物を確認しております。

今回の調査は、前回の発掘調査区から西側の丘陵末端部であり、「源常館」に比定される部分の調査となったことから、史跡浪岡城跡の周辺の城館の解明につながるものと期待しております。

発掘調査の結果は、中世の建物も遺物も確認できませんでしたが、縄文時代後期から古代、中世まで長く人々が暮らしてきた場所であることが確認できたことから、浪岡地区の歴史解明の一助となる成果が得られたと考えております。

今後も浪岡町は史跡の環境整備をはじめ、諸発掘調査、文化財の保護・保存などを進めてまいる所存です。関係各位に於かれましては、旧に倍しての御力添えをお願い申し上げます。

最後に、ご指導・ご協力を賜りました皆様に記して感謝の意を表するものであります。

平成 17 年 3 月

浪岡町教育委員会

教育長 鎌田 慎也

## 例 言

- 1 本書は、平成4年度に浪岡町教育委員会が実施した、個人住宅建設にかかる源常平遺跡発掘調査報告書である。
- 2 本書の編集並びに執筆は木村浩一が担当した。
- 3 本報告書の土層の注記については、『新版標準土色帳』(小山正忠・竹原秀雄 1993)に準拠し、基本層序及び検出構造の土層観察表は、巻末に一括して示した。
- 4 掘図の方位、縮尺は図ごとに異なる。各種遺構平面図の方位記号は磁北を示すものとし、挿図、写真図版の縮尺は統一を図らないため、図ごとにスケールを表記した。
- 5 本文中の計測値の表記において、調査区外や削平等により未確認な場合は（ ）でくくり、示した。遺物計測値においても同様の扱いとした。
- 6 遺物番号は図版・写真で個体ごとに同一の番号を付し、文中では（ ）内に示した。
- 7 出土遺物及び記録図面等並びに写真関係資料等は、浪岡町教育委員会が保管している。
- 8 発掘調査の実施にあたっては、調査対象区周辺の地権者の方々をはじめ、多くの方々のご協力をいただいた。また、報告書の作成にあたり、発掘調査指導員各位からのご教示・ご指導を賜わった。ここに深く感謝の意を表する次第である。

目 次

序

例言・目次

第1章 調査にいたる経緯	.....	1
第2章 調査経過	.....	5
第3章 検出遺構と出土遺物	.....	6
第4章 まとめ	.....	4 6
参考・引用文献	.....	4 6
発掘調査抄録	.....	4 7
写真図版	.....	4 8

## 第1章 調査に至る経緯

平成3年度に、当該遺跡の地権者及び利用者から浪岡町教育委員会に対し、源常平遺跡の西端部にあたる丘陵部を削平し、住宅を建築したいとの相談があった。

計画対象地が周知の埋蔵文化財包蔵地にあたり、昭和52年に東北自動車縦貫道路予定地として県教育委員会で発掘調査を実施した箇所に近接しているため、平成4年度国庫補助事業として、平成4年4月27日から発掘調査を実施したものである。

以下、後述の「平成4年度源常平遺跡発掘調査要項」参照。

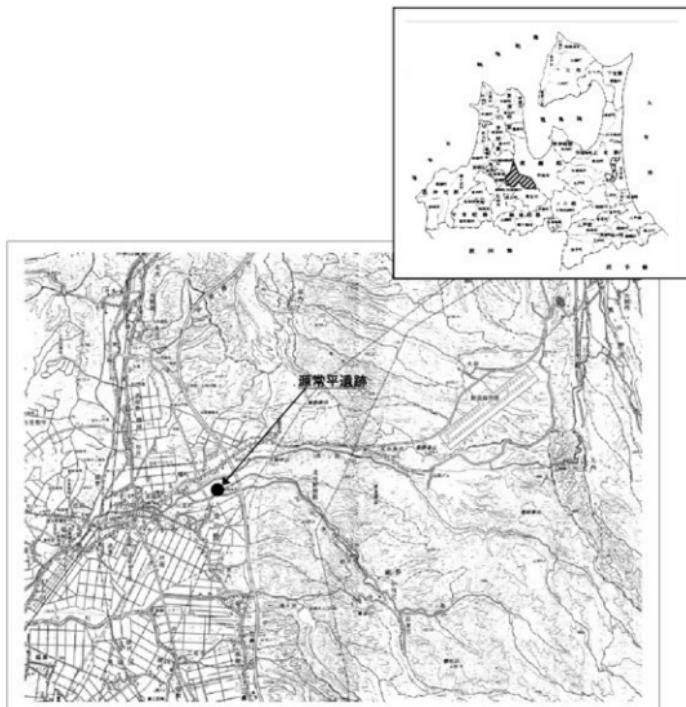


図1. 遺跡位置図

## 平成4年度源常平遺跡発掘調査要項

浪岡町教育委員会生涯学習課

### 1. 調査の目的

個人住宅の建築に係る遺跡の削平に先立ち、周知の埋蔵文化財包蔵地について緊急に発掘調査を行い、文化財の記録保存を図ることを目的とする。

### 2. 調査経緯

平成3年度に、地権者及び利用者から浪岡町教育委員会に周知の埋蔵文化財包蔵地についての問い合わせを受けた。住宅建築予定地が、源常平遺跡内であるため、平成4年4月27日から国庫補助事業として発掘調査を行うこととした。

### 3. 遺跡の概要について

源常平遺跡は浪岡町大字北中野字上沢田に所在し、遺物包含地として登録されている。現状は一部道路も含むが大部分は農地である。

東北縦貫自動車道の建設に伴い、昭和52年に青森県教育委員会により遺跡の一部を発掘調査し、縄文晚期、平安時代の遺構及び遺物を検出しており、昭和53年度には『青森県埋蔵文化財調査報告書第39集「源常平遺跡発掘調査報告書』(1978 青森県教育委員会)が刊行されている。

発掘調査は奥羽山脈から津軽平野へと突き出た丘陵地上にある「源常平遺跡」の西端部について、延長約50m、対象幅約10~15m、計約600m<sup>2</sup>の範囲を対象とする。

本調査箇所と前述の青森県教育委員会の調査箇所間に、中世城館の空堀と考えられる堀状の地形が認められるため、戦国時代の津軽に名をはせた「浪岡城跡」に関連した城館とされる「源常館」が確認される可能性も考慮できるものである。



図2. 遺跡範囲と調査対象区位置図

#### 4. 調査地及び所有者

調査地は、東から連なる丘陵の西端部であり、現在は果樹園地として利用されている。調査地は個人有地である（調査対象遺跡は図1参照）。

調査地地番等 青森県南津軽郡浪岡町大字北中野字上沢田 地内

#### 5. 調査面積（調査区位置は図2参照）

源常平遺跡（げんじょうたいいせき） 約 600 m<sup>2</sup>

#### 6. 調査期間等予定（期間中に所定の日数を行う）

準備 作業	平成4年 4月上旬	から 平成4年 4月下旬
調査 作業	平成4年 4月27日	から 平成4年 7月10日
整理・報告書作成作業	平成4年 12月 1日	から 平成6年 2月 19日

#### 7. 調査体制（4月10日現在）

源常平遺跡発掘調査指導員

弘前大学教育学部	村越 謙
八戸工業大学教授	高島 成佑
浪岡町文化財審議員	葛西 善一
弘前高等学校教諭	佐藤 仁
藤崎園芸高等学校教諭	奈良岡 洋一

浪岡町教育委員会

教育長 蛇名 俊吉

生涯学習課（文化班）

課長 奈良岡 成春

班長 天内 善麿呂

主査 木村 秀子（庶務担当）

主事 木村 浩一（発掘調査担当）

調査補助員 斎藤 とも子・佐々木 里見・武田 秀美・対馬 桂子・常田 紀子

長谷川 あつ・福士 友子

調査作業員 太田 キサ・太田 芳子・工藤 愛子・斎藤 ミツ・高木 イツ・  
津川 ふさ・常田 ケイ・常田 信子・坪田 富子・寺山 ツヤ・  
成田 サ子・羽賀 恵子・長谷川 ちよ・長谷川 やつゑ・船水 安代・  
細川 トモエ

#### 8. 調査方法

今回の調査対象地は現況が農地（果樹園）であるが、住宅の建設に伴い削平する予定であるため、試掘

等を行わざ当初から全面調査とし、7月中には発掘調査を終了することとする。

表土除去に先立ち、テストレンチを調査区に設定し、遺構までの覆土状況を確認することとした。

テストレンチの結果を基に、表土除去時から遺構等を確認し、必要な箇所の調査を行い、確認した遺構を中心記録保存を図る。また、遺構の広がりについてさらに検証し、遺構確認と遺物の検出に努める。

1) 測量（実測）は、遺り方と平板測量を併用する。

2) 遺構略称は、従来までの調査と整合性を持たせるため、原則として独立行政法人奈良文化財研究所方式をとる。

例 堅穴住居・S I、堅穴建物跡・S T、溝跡・S D、性格不明遺構・S Xなど

3) 遺物略称は、従来までの調査と整合性を持たせるため、浪岡地区での発掘調査方式をとる。

例 土器・P、石製品・S、鐵製品・F など

遺構については、時代・時期を問わざ掘り下げを行う。遺構について平板実測及び写真撮影等を行い記録の保存に努める。遺物については、可能な限りすべて取り上げるものとする。

調査区については、10m グリッドを基本とし、木杭を設定した。

基準となる杭は、南北軸を算用数字（南へ昇順）、東西軸をアルファベット（東へ昇順）として設定した。

#### 9. 調査報告書の作成

調査結果については、「源常平遺跡発掘調査報告書一個人住宅建築に係る緊急発掘調査一」として刊行し、成果を公表する。

## 第2章 調査経過（調査日誌より抜粋）

- 4月27日（月）現地にて発掘調査準備。倒木、雑木等の排除及びテントの設営。
- 4月28日（火）グリッド杭設定。東西南北ともに拡張する可能性を考え、C～G及び4～11のグリッド番号を付した。F10・11区のテストトレンチ表土除去作業。調査区地形図作成（1/100）。
- 5月1日（金）表土除去状況からは表層が薄く農作業による擾乱が広範囲で認められる。
- 5月6日（水）テストトレンチの結果に基づき、F10・11区を平面的に掘り下げ開始。
- 5月11日（月）F11・12区に並行して、F8・9区も表土除去作業を開始。
- 5月12日（火）E8・9、F8・9・10・11区表土除去。E9区が特に遺物の出土が多い。
- 5月15日（金）E7・8、F7・8区の表土除去。
- 5月18日（月）E7・8・9・10・11、F7・8・9・10区の表土除去が概ね終了。遺構確認作業に入る。
- 5月19日（火）調査区東側から堅穴建物跡を4棟、溝跡1条を確認する。
- 5月21日（木）S106、S109、S112掘り下げ開始。S112は縄文時代の遺構かもしれない。
- 5月26日（火）E5・6・7区表土除去作業開始。
- 5月29日（金）調査区中央部では遺構の重複が著しいが、部分的に覆土がきわめて浅く、設定したセクションからも遺構の新旧関係が確認できない。連日暑い。
- 6月3日（火）S102西側のSX01・02の掘り下げ開始。S102とSX03の新旧関係は依然不明。S104（旧）S105（新）、S107（旧）S105（新）と思われる。S104とS107の新旧関係は不明。
- 6月4日（木）S101掘り下げ開始。
- 6月9日（火）SD01掘り利下げ開始。
- 6月10日（水）SX01から縄文土器（深鉢）が2個体出土。縄文時代のピットと思われる。
- 6月11日（木）斜面の調査も行うこととし、北側及び西側斜面にトレントを設定する。
- 6月15日（月）各遺構についての図化及び遺物の取り上げが遅れ気味のため、作業員を斜面トレントの調査に入れる。
- 6月18日（木）斜面については表土が薄い。ノイバラが多く作業が困難。
- 6月23日（火）西側の傾斜面について表土除去するも、遺構等は確認できなかった。SX01・02完壊。
- 6月24日（水）調査区北側の斜面掘り下げ。各遺構の精査。
- 6月30日（火）北側斜面の下部で薬研壙状の深さ1.8～2.0mほどの掘り込みを確認したが、出土遺物はなく、埋土も擾乱土が混ざるため、時代判定が出来なかった。なお、掘り込みへの湧水もない。各遺構についてはほぼ完掘状態となった。
- 先週から連日の猛暑、作業員の体調と遺構の乾燥により現場作業に支障をきたしている。
- 7月6日（月）遺構の理土セクション図作成。ベルト除去。調査区平面図作成。
- 7月10日（金）遺構のベルト除去、調査区平面図作成終了。現場作業終了となる。午後はテント等機材一式の移動を行った。週明けからは別現場の調査に入る。
- 12月1日（火）～ 報告書作成（整理作業）開始。

### 第3章 検出遺構と出土遺物

当初地形平面図から、調査は約 1,200 m<sup>2</sup>の範囲を想定していたが、斜面及び道路の法面保護のためのブロック積み面が調査不能であったため、住宅建築に伴う削平対象の上部平面の約 600 m<sup>2</sup>について発掘調査を実施した。調査箇所及び調査区名称・位置については、平面図（図 1・2・3）参照。



図3. 調査区内遺構配置図

### 堅穴住居跡（S 1）

堅穴住居跡と想定される遺構を9棟検出した。各遺構の軸線は南北軸からほぼ45度傾くため、以下の報告ではそれぞれ北西側を「北」、南東側を「南」、北東側を「東」、南西側を「西」と呼称する。

#### S 1 O 1 (図4・5、表2、写真3)

S 1 O 1は、E 7、F 7区で検出した。建物は南北(4.5)m、東西(2.0)mほどを確認したが、遺構の北東側のコーナーのみの検出で終了した。東壁北側で南東側に幅(2.5)m、長さ4.5mほどの舌状のスロープが検出されたが、本遺構に付随する施設と考えられる。遺構上面は農作業によると思われる削平を全面に受けているが、本調査のなかでは比較的保存状態の良好な遺構であった。なお、遺構西側は地権者との調整がつかず、調査できなかった。また、柱穴の配置は不明。壁溝等は確認できなかった。

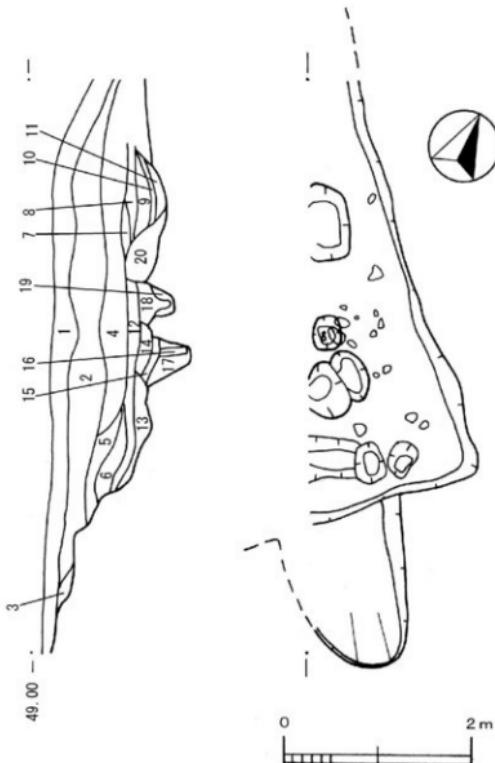


図4. S 1 O 1 遺構平面図

出土遺物（図5、写真3）は、縄文土器や土師器、須恵器が出土している。主体は土師器であり、口縁部から胴部にかけ、横なで調整を行っている甕（1・2）、ロクロ成形による甕（3）、内黒甕（4）、ロクロ成形による浅型の甕（5）がある。須恵器については、火拂の残る甕（7）、甕または壺の底部（8）等が出土している。また、把手付き土器（6）も1点の出土をみた。

出土遺物全体からは、平安期の堅穴建物跡と思われるが、出土遺物には時期差があるため、遺構年代の特定には至らなかった。

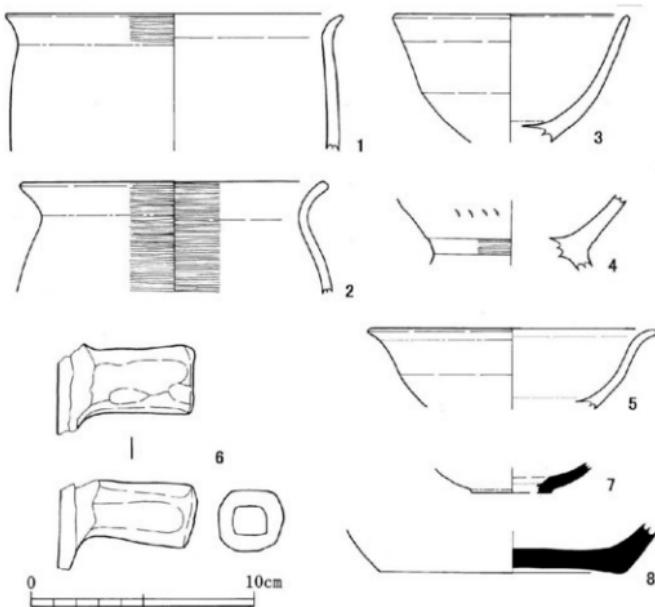


図5. S101出土遺物

**S I O 2** (図6・7、表3、写真1・3)

**S I O 2**は、E 7区で検出した。南北方向に5.0m、東西方向に(4.5)mのほぼ正方形を呈する遺構であり、**S X O 3**と重複しているが新旧関係は不明である。南東側に壁溝を検出したが、遺構全体では確認できなかった。

柱穴については、中央に比較的大きな掘り込みを検出したが、他に柱穴は検出できなかつたため、建物の構は不明である。南西側の壁から中央にかけて農作業（リンゴ樹）による搅乱が認められた。

出土遺物（図7、写真3）は、縄文晩期の浅鉢（9）台付土器の台部（10）、土師器では肩部に張りを持つ甕（11）、小型の鉢（12）、外面に二次焼成を受けた壙（13）、ロクロ成形の坏では口径：器高が2:1程度の坏（14）や同じく4:1程度の皿状の坏（15）が出土している。

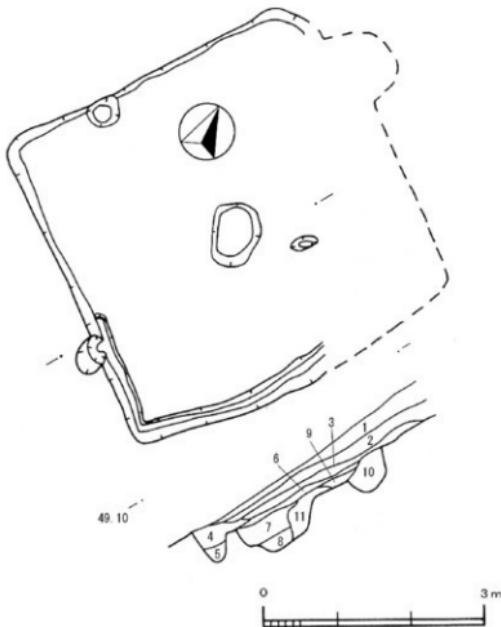


図6. S I O 2遺構平面図

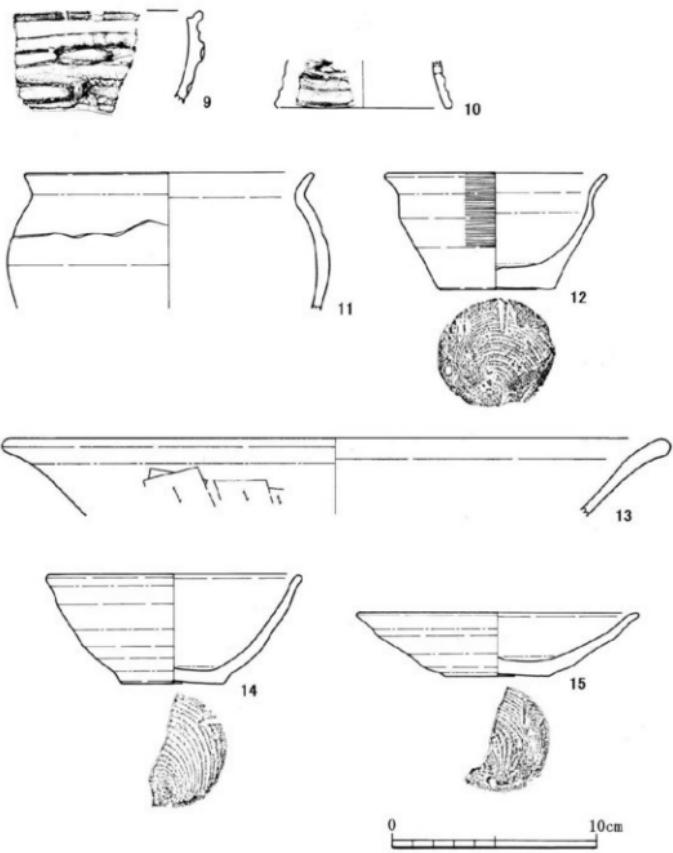


图 7. S102 出土遗物

S I O 3 (図8・10・11、表4、写真1・4)

S I O 3は、E 8・9、F 8・9区で検出した。S I O 4と重複しており、セクション図等からはS I O 4より古いと考えられる。遺構の削平が著しく、S I O 3の埋土は極めて薄くしか残っていなかった。

規模は、南東側の壁がS I O 4により確認できなくなっているが、南北7.0m、東西7.0m程度の正方形に近い建物と考えられる。S I O 3の他の柱穴については、S I O 4内に存するものも考慮すべきであるが、不明確なため、ここでは割愛した。

調査時はS I O 4と同一遺構としていたため、出土遺物の遺構ごとの分類は行っていない。なお、調査時はS I O 3・O 4を、同一遺構として捉えていたため、出土遺物を分類できていない。

このため、出土遺物については、一括してS I O 4の報告の後に添付することとした。

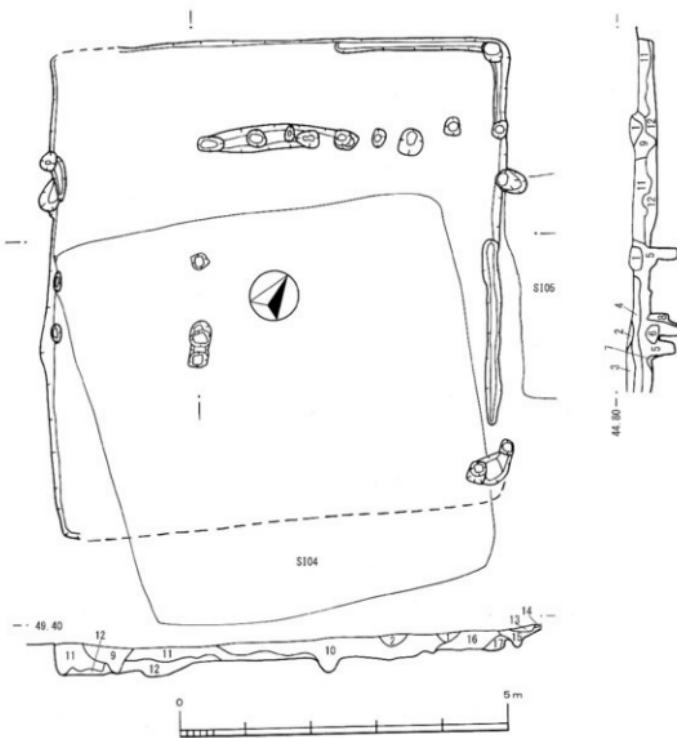


図8. S I O 3遺構平面図

S104 (図9・10・11、表4、写真1・4)

S104は、E8・9、F9区で検出した。S103と重複しており、壁の立ち上がりが部分的に不明であるため、柱穴列とセクション図から推定した遺構である。南北5.5m、東西5.0m程度の長方形と考えられる。南東部のコーナー付近にフ拉斯コビット状の掘込み（SX06）が見られたが、内部からは石が散見されるのみであった。新旧関係は把握できなかったが、形態からは縄文時代のフ拉斯コ状ビットと思われる。S103とS104の新旧関係は、S104が新しいものと考えられる。

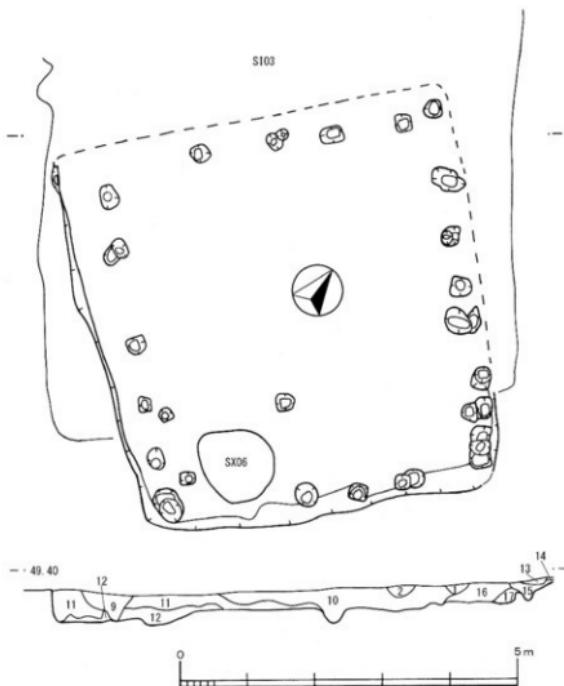


図9. S104遺構平面図

出土遺物について、S103・04からは縄文時代後期・晩期、平安時代及び平安～中世の各時期の遺物が混在し出土している。

両遺構とも平安時代の住居跡と思われる。遺構に伴う出土遺物（図10、写真4）は、本遺構においては土師器が主となる。口縁部を横なで調整し、頸部からへら削りにより成形した甕（16・17）、口縁部の外反が少なく口縁直下からへら削りの見られるもの（18）、口縁の外反が大きくへら削り成形の方向が一定しないものの（19）、口縁部の内外面が横なで調整を受けている壇（20）、ロクロ成形の杯（21）、器形不明の台（22）が出土している。また、本遺構からは時期不明の銅製品が出土した。釘隠しの「六葉」もしくは小型の銅鏡とも考えられる破片（23）、環状の用途不明製品（24）である。いずれも生活用品ではなく装飾用具もしくは宗教用具と考えられる。

また、混入したと思われる縄文時代の出土遺物（図11、写真4）では、後期の大型の壺（25・26）、後期末と思われる鉢（27）、後期の土器と思われるが機種が不明なもの（28）、晩期の小型壺（29）・浅鉢（30）・台付鉢と思われるもの（31）等が出土している。

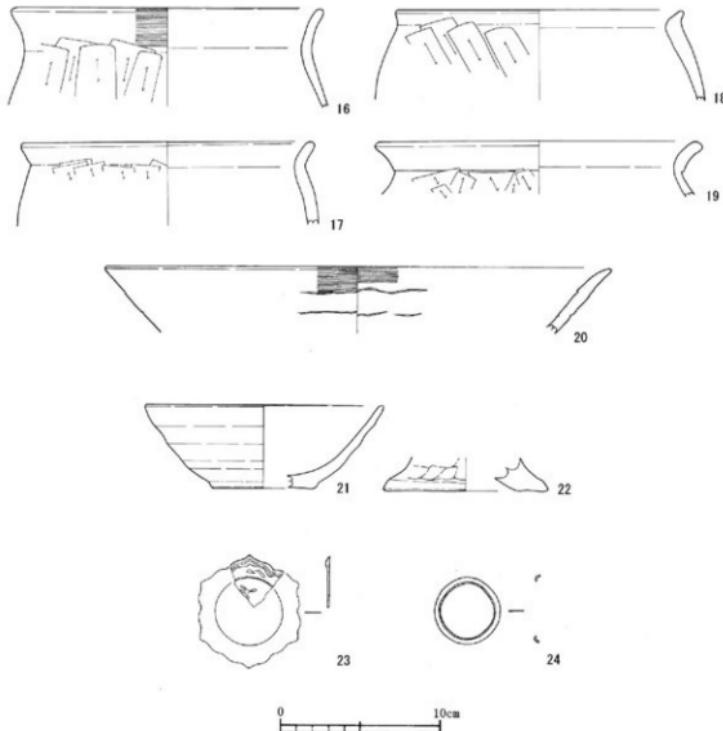


図10. S103・04出土遺物（平安時代以降）

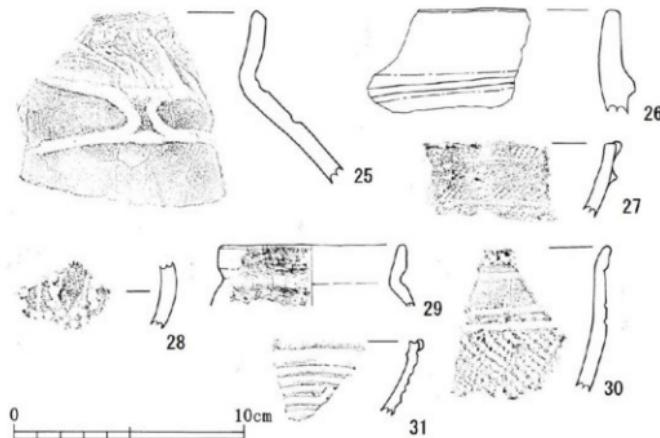


図11. S103・04出土遺物（縄文時代）

#### S105（図12・13、表5、写真5）

S105は、E9区で検出した。遺構は南北3.5m、東西3.5mほどのほぼ正方形を呈する。遺構は壁溝が巡らされ、溝の四隅に柱穴が配置される。また、壁溝は南側コーナー付近で一部途切れていた。

S104・07と重複しており、両者よりも新しい遺構である。北側は搅乱により削平されており、壁溝・柱穴とともに不明である。

出土遺物（図13、写真5）は、口縁部内外面を横なで調整した土師器甕（32）、広口の須恵器壺と思われる破片（33）などが見られる。

#### S106（図14・15、表6、写真1・5）

S106は、F9・10区で検出した遺構である。遺構は南北4.8m、東西3.7mほどの長方形を呈している。全体に農作業によると思われる削平を受けており、遺構埋土がきわめて薄い状態であった。また、南側の壁に見られた掘り込みは、近年の搅乱であることを確認している。残存している遺構状態からは、東側の一部を除き壁溝が巡らされており、壁溝内に柱穴を配置している。また、東側の張り出しへ、カマド跡の可能性が考えられるが、調査からは確認できなかった。遺構は平安時代の可能性が考えられるが、年代は不明である。

出土遺物（図15、写真5）には、縄文後期～晩期の深鉢（34）、口縁部が大きく外反し薄い胴部は縦位のへら削りによる調整を行った土師器甕（35）、皿状に広がった土師器杯（36）などがある。

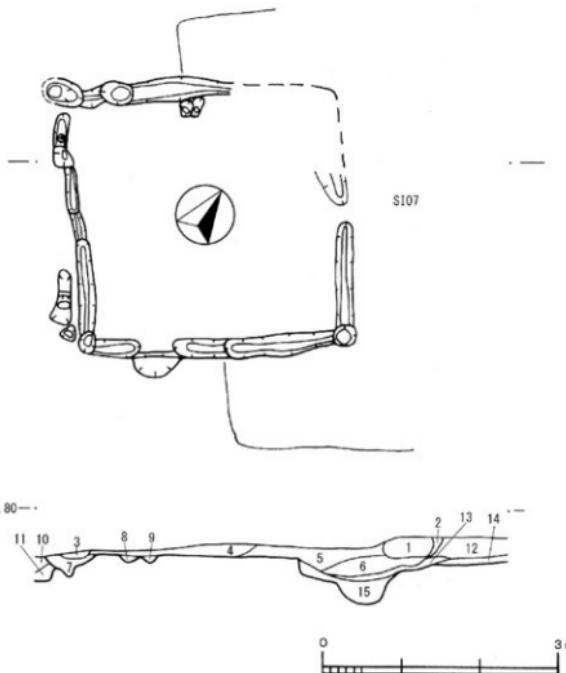


图 12. S105造構平面図

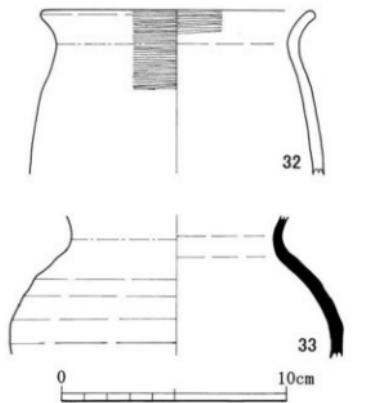


图 13. S105出土遺物

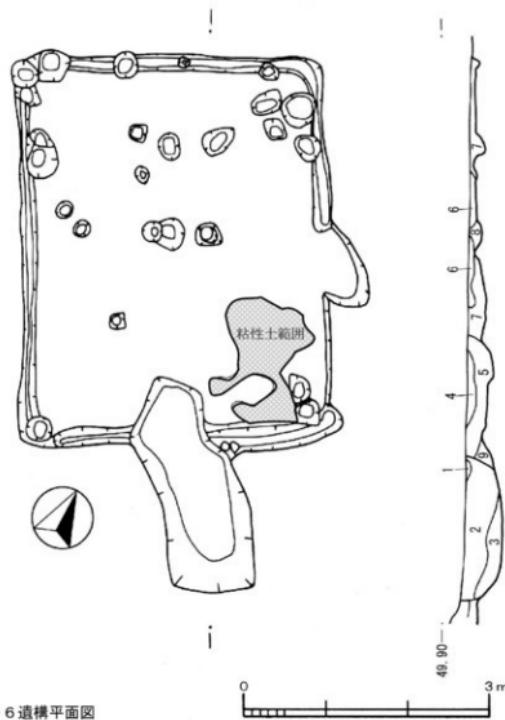


図14. S106遺構平面図

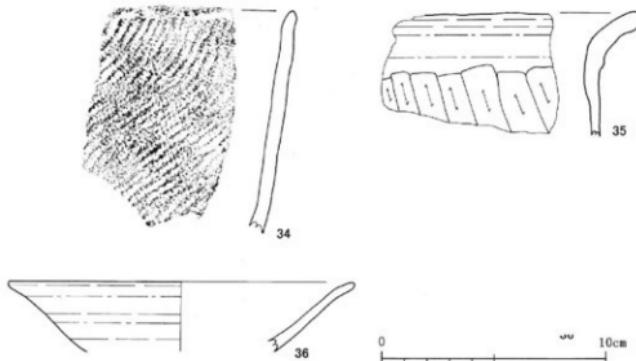


図15. S106出土遺物

**S107** (図16・17・18・19、表7、写真2・5・6・7)

**S107**はE9・10区で検出した遺構である。**S105**、**SD01**と重複しているが、いずれの遺構よりも古い。北側で**S109**とも重複しているが、新旧関係は不明である。規模は、南北6.0m、東西6.8mほどと思われる。北側は策定により明確な壁が検出できず、一部立ち上がりが認められるのみである。残存している部分は北側以外で壁溝が検出されているが、**S105**や**S109**、**SD01**との重複により壁の立ち上がりは確認できなかった。南側の壁面にカマド状の掘り込みが認められたが、農耕による削平・擾乱により十分な調査結果が得られる状態ではなかった。建物の形態からは平安時代の堅穴建物と考えられる。

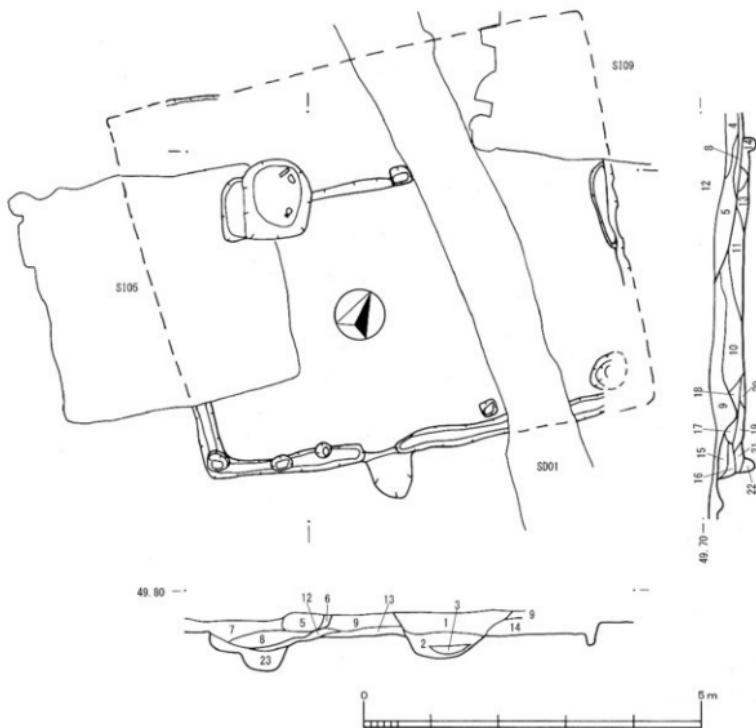


図16. S107遺構平面図

遺構に伴うと考えられる遺物として、平安時代の遺物中（図17・18、写真5・6）、土師器については口縁部の外反が少なく輪積み痕が残る甕（37）、底部を台状に成形した甕（38・39）、須恵器を模した甕（39・41・46）、口縁部の外反が少ない甕（40）、頸部から胴部にかけてへら削り成形が顕著な甕（42）、小型の甕（45）、小型の壺（44）胴下部を横位のへら削りで成形した甕（47）、ロクロ成形の回転糸切底を持つ甕（48・49）静止糸切底の甕（50）、須恵器甕（51）・壺（52・53）のほか、羽口（54）などが出土している。

また、混入したと思われる縄文時代の土器等（図19、写真6・7）では、後期の深鉢と思われるもの（55）、晩期の浅鉢と思われるもの（56～58）、土偶または土版と思われる土製品（59）がある。土製品は沈線による文様が施され、図上部に水平に棒状のものを通してと思われる痕跡が認められる。

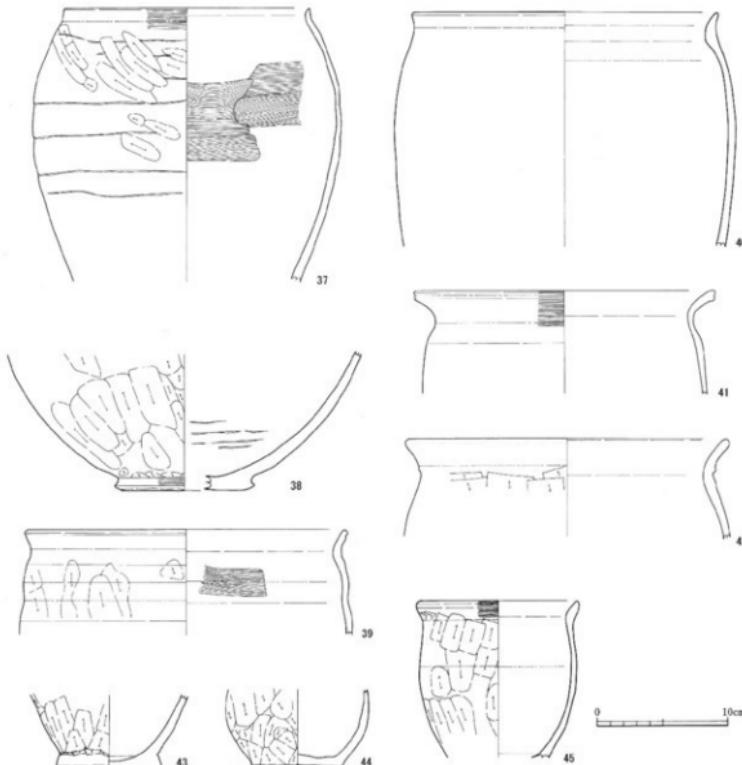


図17. S107出土遺物（平安時代）

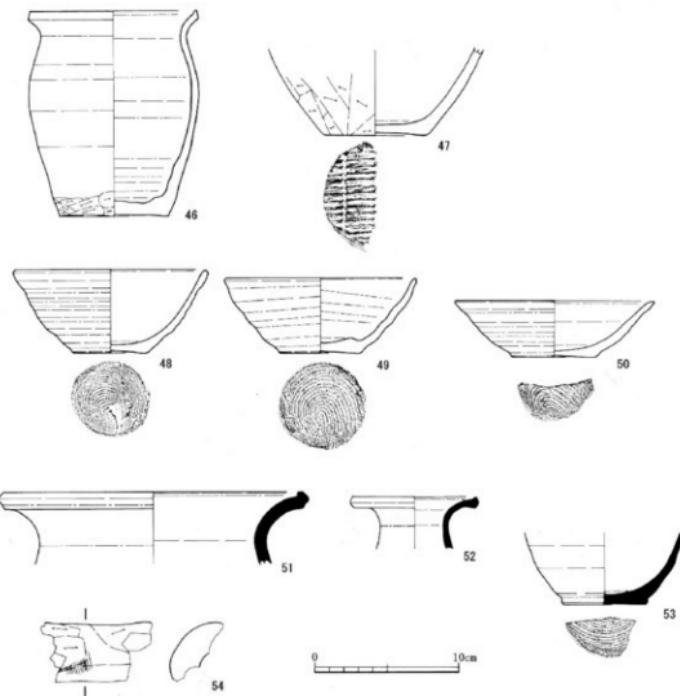


図18. S107出土遺物（平安時代）

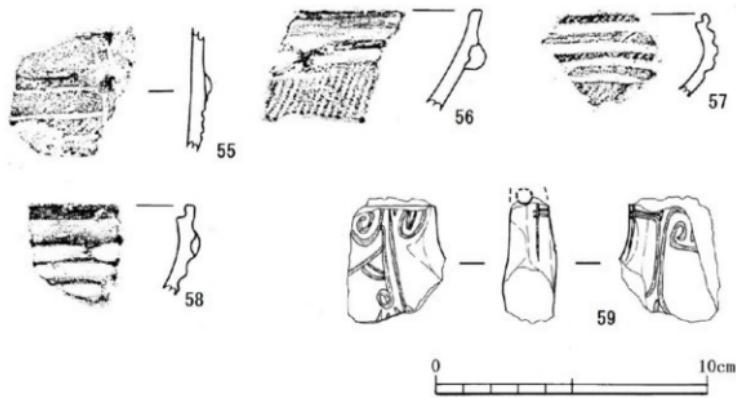


図19. S107出土遺物（縄文時代）

#### S I O 8 (図20)

S I O 8は、E 1 0、F 1 0区で検出した。遺構は、S D O 1の西壁に南西のコーナー部が確認され、柱穴列からS I O 7及びS I O 10と重複した範囲に遺構があったものと考えられる。S D O 1、S I O 10よりも古いと思われるが、S I O 7との新旧関係は不明である。また、推定できる建物規模として南北(6.5)m、東西(5.5)mほどを確認したが、遺構の大部分は調査対象区外でもあり、実際の規模等については不明である。

出土遺物も不明である。

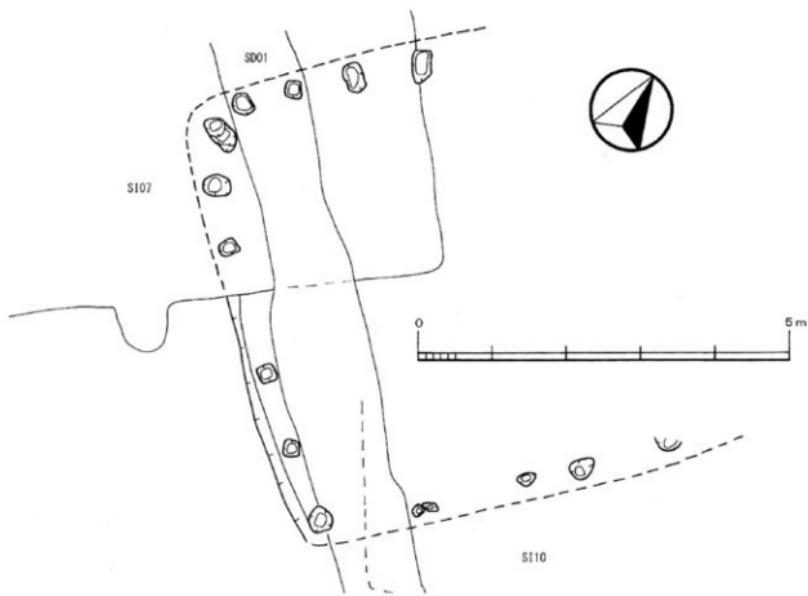


図20. S I O 8遺構平面図

### S 109 (図21)

S 109は、E 10区で検出した。遺構は、南西のコーナー部を確認したのみであるため、全体像は不明である。遺構の大部分は調査対象区外であり、南北(3.6)m、東西(2.6)mほどを確認したが、実際の規模等については不明である。

調査時は建物の認識を行っておらず、遺構実測図の検討時に建物として認定した。堅穴住居跡に分類したが、性格不明遺構(S X)としての分類が適当かもしれない。遺構に伴うと思われる出土遺物は確認できなかった。

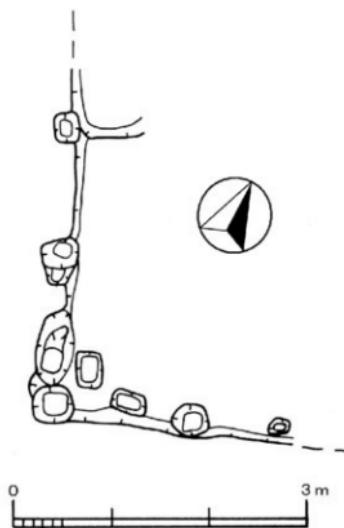


図21. S 109遺構平面図

### S 110 (図22・23、表8、写真2・7)

S 110は、E 10・11、F 10・11区で検出した。遺構は北側が調査区外、西側がS D 01により切られており、規模は不明である。確認した規模は南北(2.5)m、東西(6.5)mである。

建物は全体像が不明であり、柱穴配置も確定できなかった。壁溝についても検出していない。

遺構確認時から粘土土と褐色土の混和土が広く確認された。また、南側壁面の張り出し部分はカマドの可能性が考えられたが、焼土の広がりは確認できなかった。

粘土層の分布やカマドの焼土が確認できなかつたことから、畑として用いる前、中世以前に建物の棄却と地業が行われた可能性も考えられる。

遺構確認面での粘性土分布範囲図



遺構完掘状態

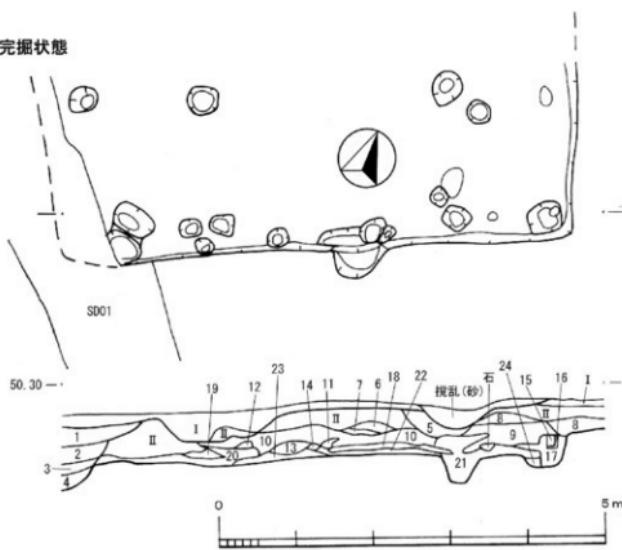


図22. S110遺構平面図

出土遺物（図23、写真7）については、縄文時代の遺物として、晩期の土器片（60）、土器転用の円形土製品（61）などがある。土器は、輪積み痕が残る甕（62）、口縁部以下の器面（外面）がへら削りによる成形による甕（64）、内面の横なで調整が顕著な甕（63）、ロクロ成形後にへら等により再度調整した壺（65）、静止糸切底の壺（66）、回転糸切底の壺（67）、須恵器甕（68）が出土している。

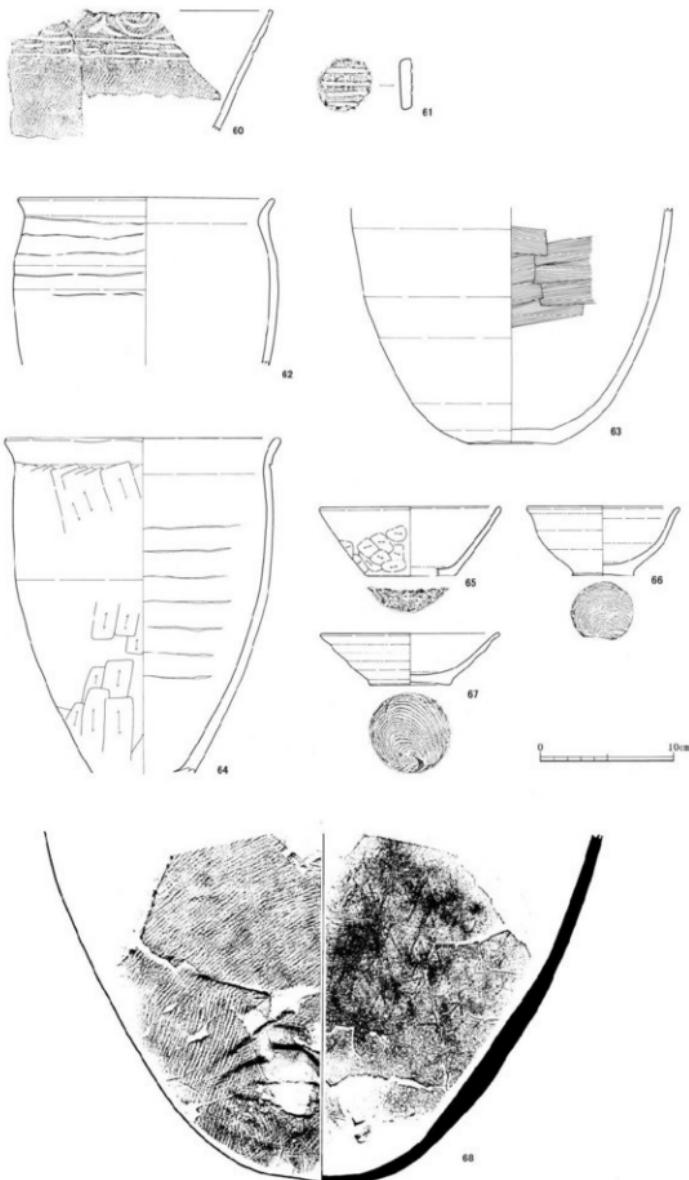


图23. S110出土遗物

### S I 1 1 (図24・25、表9、写真8)

S I 1 1は、E 1 1、F 1 1区で検出した。北側は調査区外のため状態は不明である。確認した規模は、南北(3.0)m、東西3.2mを測る。

調査できた部分からすべて壁構が確認された。南側壁にカマド跡と思われる張出状の掘り込みを検出しが、焼土層が薄く誤って掘り下げてしまった。

出土遺物(図25、写真8)は、縄文時代の土器では、横位の沈線が施された晩期の浅鉢(69)と、横位の沈線文とT字型の窓を8単位設けた同時期の台付浅鉢の台部分(70)が出土した。

平安時代の遺物では、土器が出土しており、成形の良好な土器器甕(71)、輪積み底と口縁部のなで調整、肩部以下のへら削り痕が明瞭に残る甕(72)などがある。

遺構及び遺物からは、平安時代の建物跡と思われる。

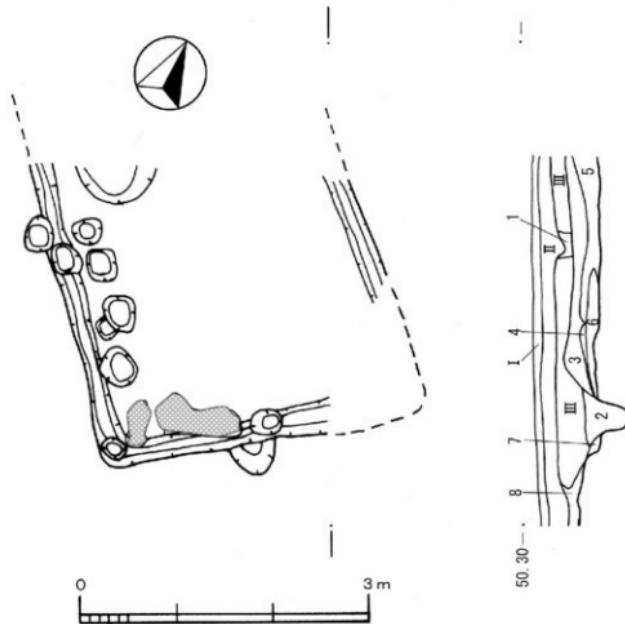


図24. S I 1 1遺構平面図

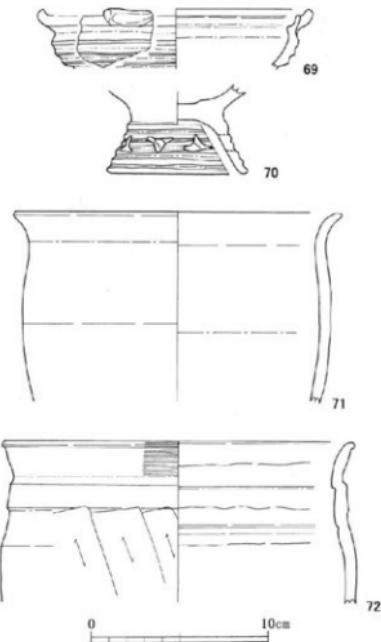


図25. S111出土遺物

#### S112 (図26・27、表11、写真8)

S112はF11区で検出した。検出規模は南北(2.5)m、東西(2.8)mを測る。方形遺構の北西コーナーと思われる。遺構確認段階では縄文時代の堅穴住居跡と考えたが、出土遺物及び埋土状態からは、時代は不明である。

出土遺物(図27、写真8)には、頸部を縱位にへら削り、内面を横位のなでにより成形・調整した土師器甕(73)、ロクロ成形で、内面を横なで調整した坏(74)、須恵器壺(75)などがある。

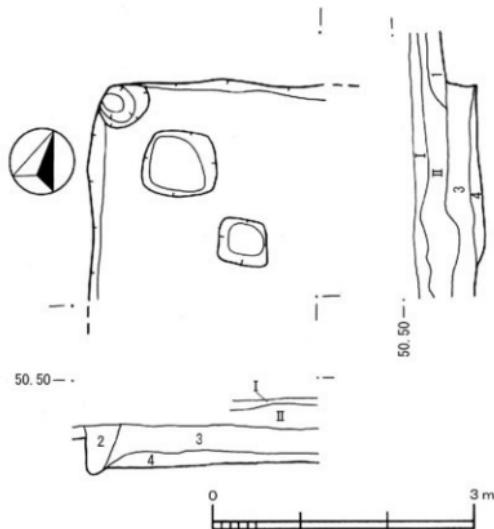


図2.6. S I 12遺構平面図

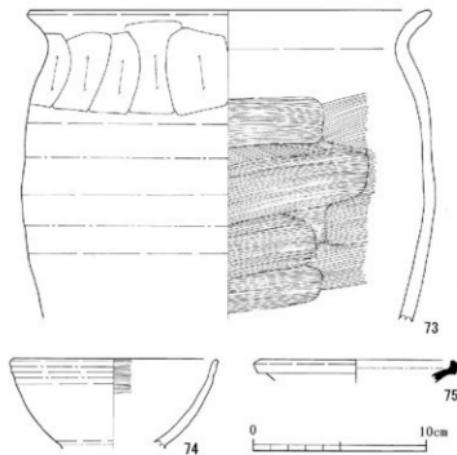


図2.7. S I 12出土遺物

### 溝跡 (S D O)

溝跡は1条検出した。

#### S D O 1 (図28・29、表11、写真2・9)

S D O 1は、E 10、F 10区で検出した。南東から北西に傾斜する溝跡である。S I O 7・O 8・10、S X O 5と重複しており、いずれの遺構よりも新しい。規模は、確認幅で1.0～1.5m、延長(21.5)mを測った。表土直下からの掘り込みであるため近現代の溝と考えられる。

出土遺物(図29、写真9)は、縄文時代後期の土器片(76～78)、晩期の土器片(79～81)、土師器甕(82～85)、須恵器甕(86)などである。

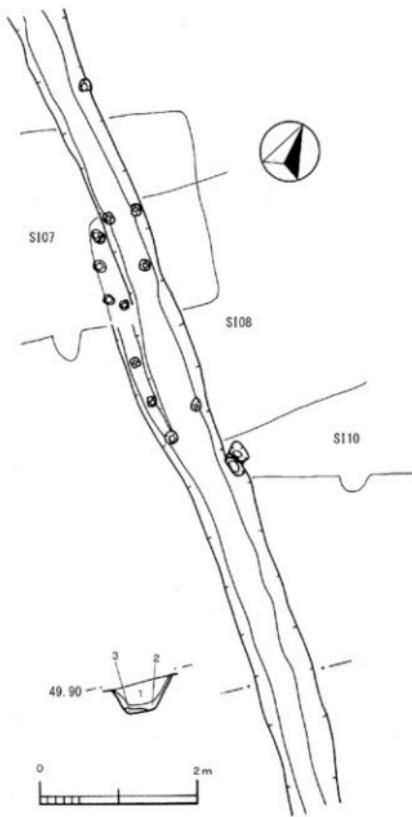


図28. S D O 1遺構平面図

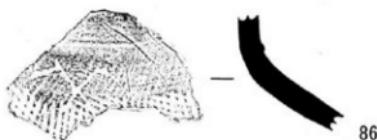
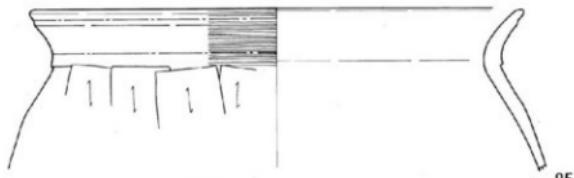
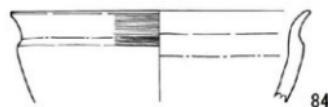
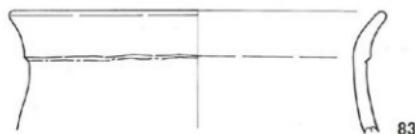
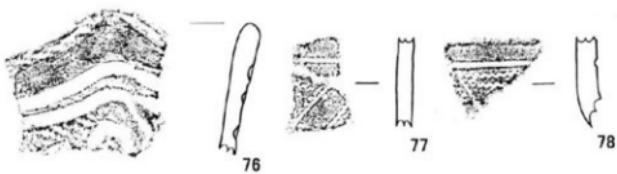


図29. SDO1出土遺物

0 10cm

#### 性格不明遺構 (S X)

竪穴建物跡や土坑等の可能性はあるが、明確に判断できない遺構を性格不明遺構として報告する。

#### S X O 1 (図30・31・32・33、表12、写真9)

S X O 1はE 7区で検出した。長径2.7m、短径1.8m、確認面からの深さ約1.0mほどの不定形の土坑である。土坑掘り込みの平面形が、不定形であり、廐棄遺構の可能性もあるなど性格が不明であるため、性格不明遺構に分類した。S X O 2と重複しているが、S X O 1が古い。

出土遺物 (図31・32・33、写真9) として、縄文時代後期の深鉢 (87~89) 3個体を検出した。

(87) は胸部下半から底部にかけて出土したもので、底部に網代痕が明瞭に残り、胸部全面に斜縄文を施した個体である。

(88) は胸部から底部まで検出した。文様は胸部にのみ施される。無紋の胸部に沈線による文様帯が認められるが、文様はいくつかの渦巻きや丸を自由な線で繋いでいるもので、文様の規則性は認められない。

(89) は口縁に7箇所の突起をもつ波状口縁の深鉢型土器で、口縁部から肩部にかけては無文である。肩部以下は全面に斜縄文を施した上に沈線により規則性を持たない自由な文様を描いている。

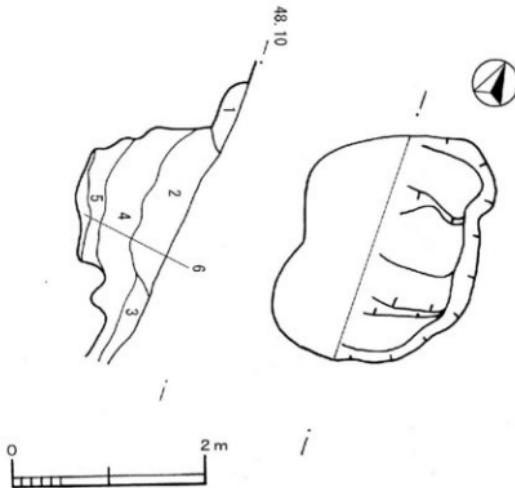


図30. S X O 1遺構平面図

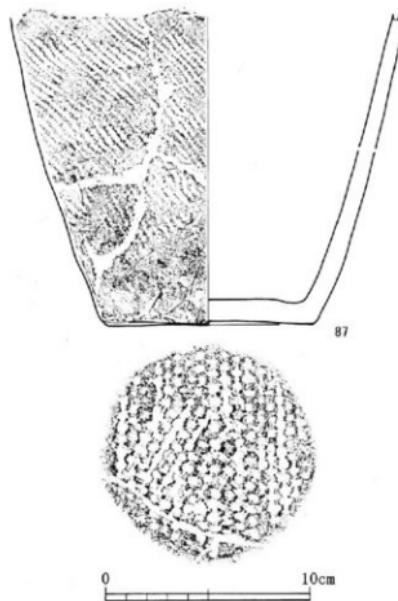


図3.1 SXO 1出土遺物（遺物番号87）

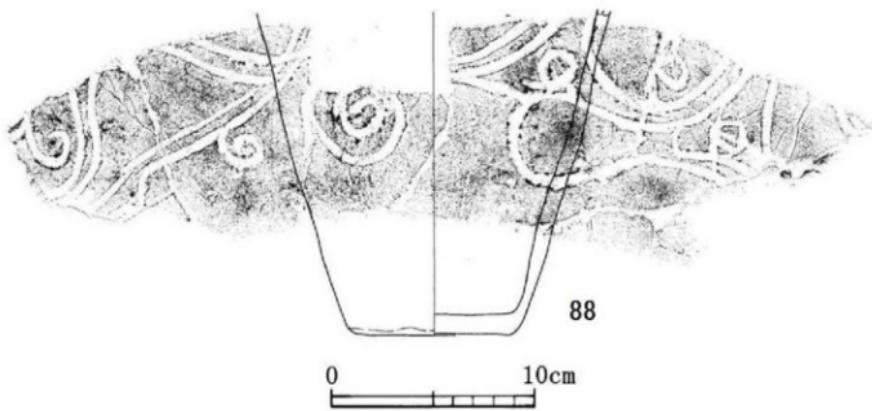


図3.2 SXO 1出土遺物（遺物番号88）

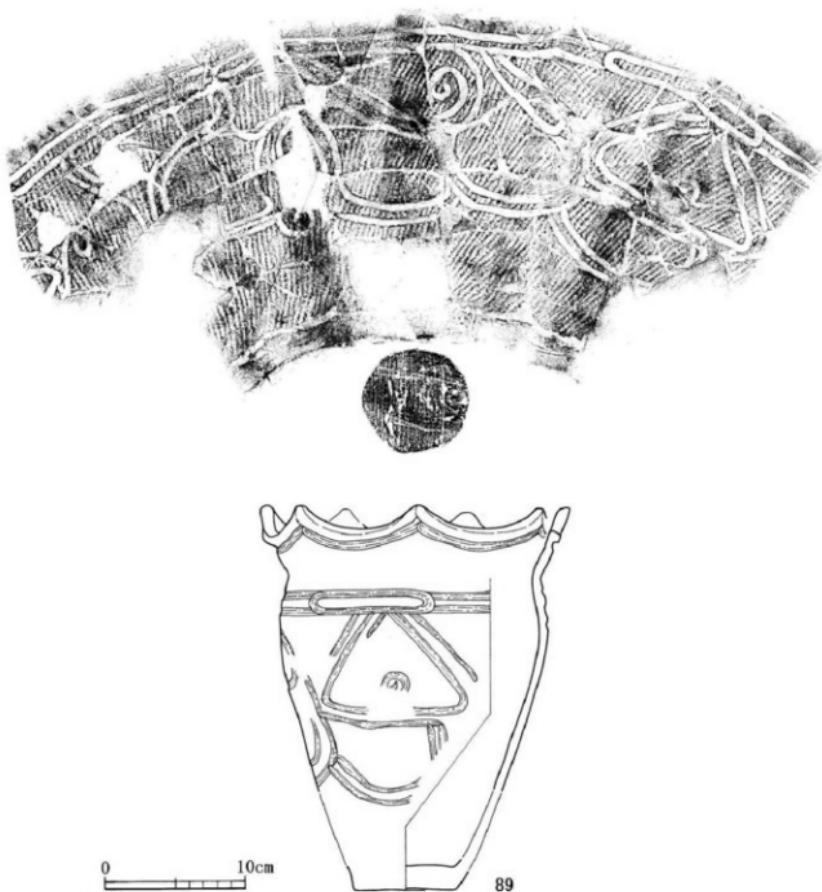


図33. SXO1出土遺物（遺物番号89）

**S X O 2** (図34・35、表13、写真10)

S X O 2はE 7区で検出した。堅穴建物状を呈するが、北東のコーナーのみであり、埋土の状況も上層からの掘り込みが認められるなど、遺構の性格が不明であるため性格不明遺構とした。遺構の時代は不明である。確認した規模は、南北(3.5)m、東西(4.3)mほどである。

出土遺物(図35、写真10)は、縄文後期の深鉢(90・91)、口縁部直下に段を持つ土師器甕(92)、ロクロ成形による土師器环(93)、須恵器甕(94)・壺(95)などである。

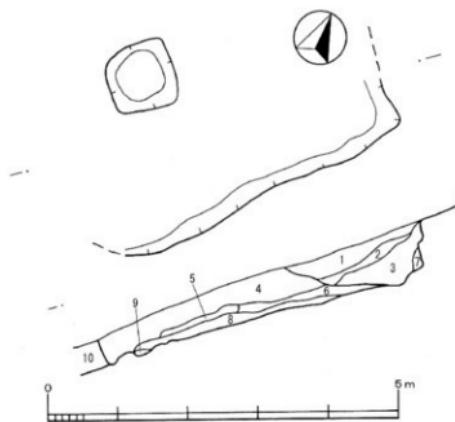


図34. S X O 2遺構平面図

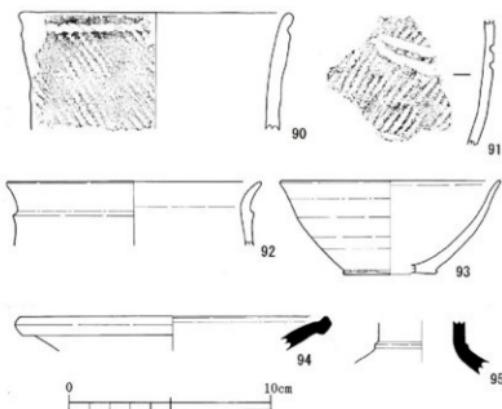


図35. S X O 2出土遺物

**S X O 3** (図36・37・38、表14、写真1・10・11)

S X O 3はE 7・8、F 7・8区で検出した。S I O 2と重複しているが、新旧関係は不明である。確認した規模は、南北 7.0m、東西 10.0mほどの長方形を呈するが、2棟の堅穴建物が重複したものであるかもしれない。いずれにせよ、農耕（リンゴ果樹）による搅乱・削平が著しく遺構の全体像がつかめないため、性格不明遺構として報告する。

出土遺物のうち縄文時代の土器・石器（図37、写真10）は後期の深鉢で全面に斜縄文を施したもの（96）、絡繩体（網代文）を施したもの（97・98）、沈潜により文様を施したもの（99-100）、器形不明土器（101）、珪質岩製横型石匙（102）である。平安時代の出土遺物（図38、写真11）には土師器甕（103-106）・壺（107）、静止糸切底の壺（109・110）、回転糸切底の壺（108・111）、底に網代痕を持つ手捏ねの壺（112）が見られる。また土製品では、土鉢の破片と思われるもの（113）、土馬またはキノコ状土製品の可能性があるもの（114）が出土している。

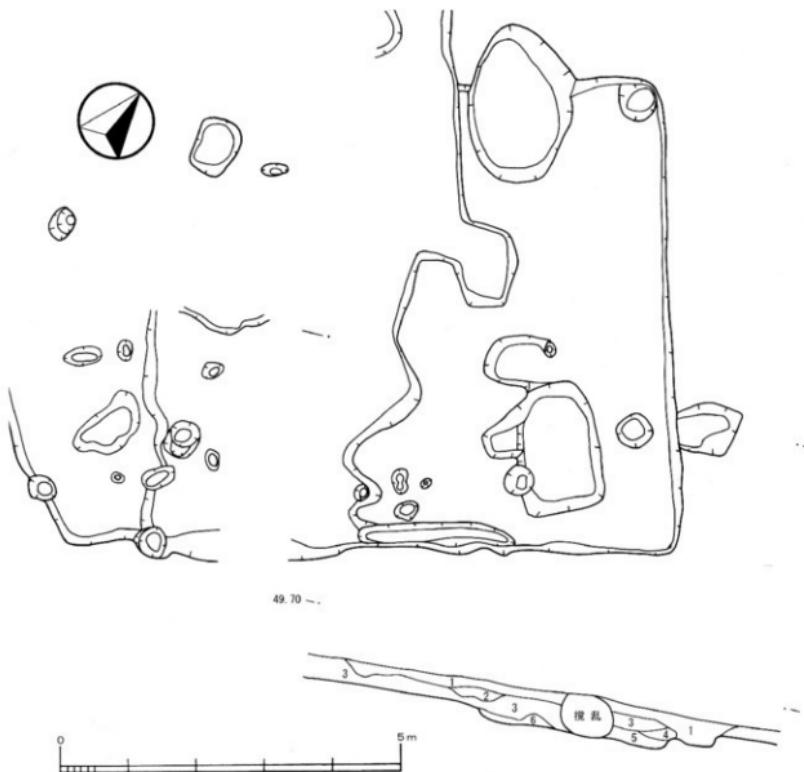


図36. S X O 3遺構平面図

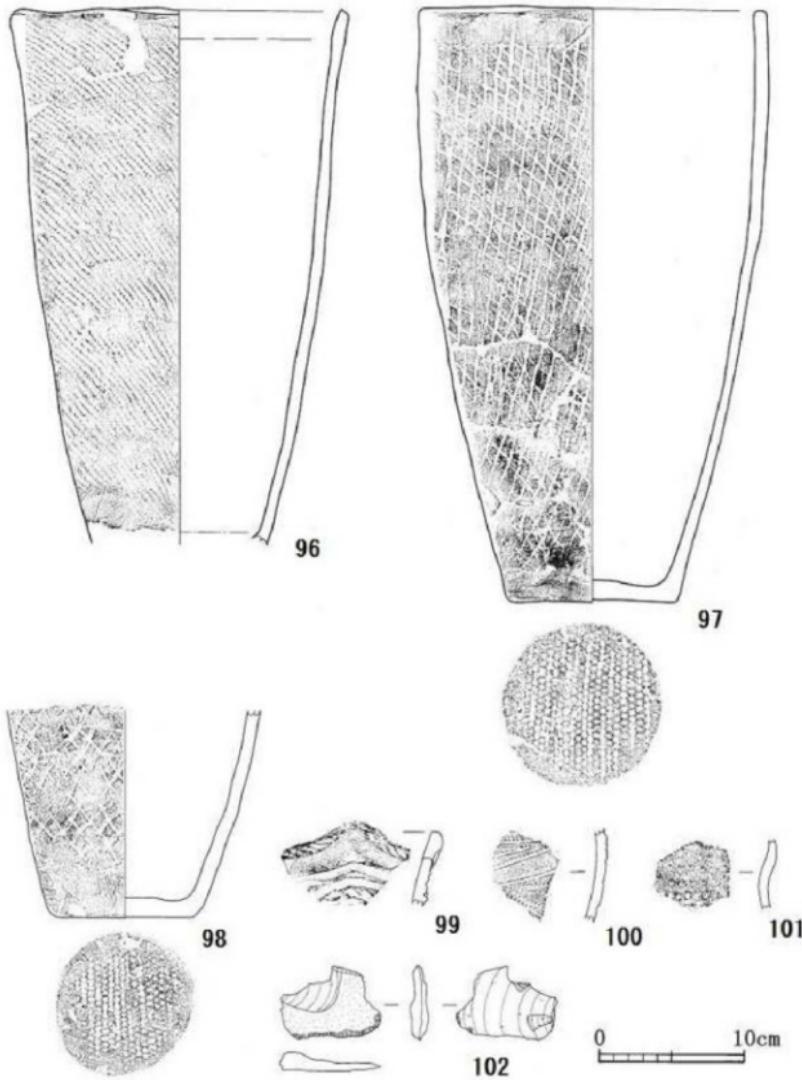


図37. S X O 3出土遺物（縄文時代）

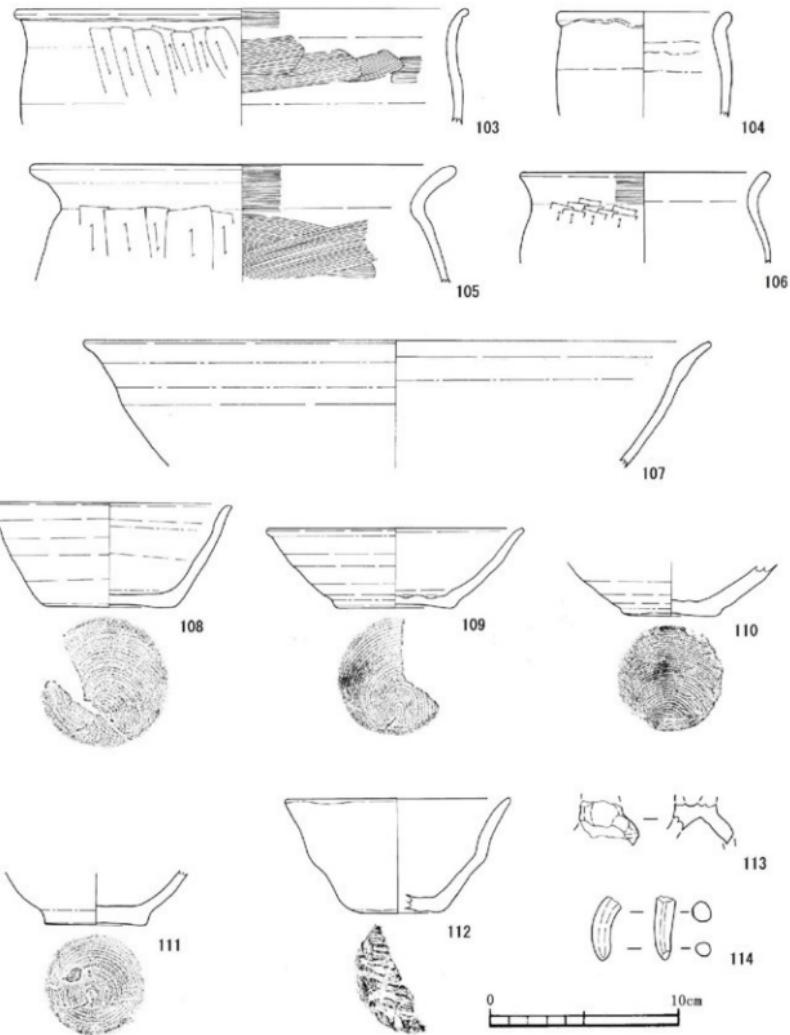


図38. S X O 3出土遺物（平安時代以降）

**S X O 4** (図39・40、写真2・11)

S X O 4はE 8区で検出した直径 1.2mほどの円形を呈する土坑状の遺構である。遺跡北側の斜面上端にあり、覆土・埋土とも擾乱・削平が著しかったため、遺構の時代区分もできなかった。出土遺物(図40、写真11)には縄文後期の土器(115・116)、晩期の土器(117)、土師器小型甕(118)がある。

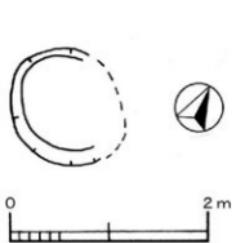


図39. S X O 4遺構平面図

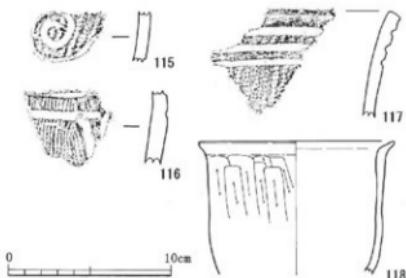


図40. S X O 4出土遺物

**S X O 5** (図41・42、表15、写真2・12)

S X O 5はE 9・10区で検出した。遺跡北側の斜面上端にあり、南北1.4m、東西(0.7)mのコーナーの付いた楕円形を呈する。S D O 1と重複しており、S D O 1よりも古い遺構である。

検出当初は縄文時代の土坑墓を想定したが、調査からは埋土状況及び出土遺物とともに遺構の時代及び性格が不明であったことから、性格不明遺構として報告する。

出土遺物(図42、写真12)は、表面が熱により剥離している土師器の小型の甕(119)のみである。

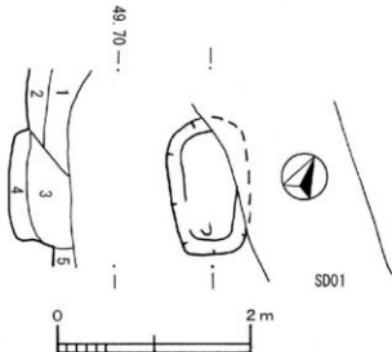


図41. S X O 5遺構平面図

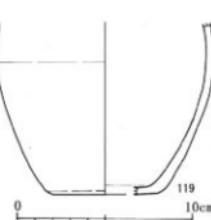


図42. S X O 5出土遺物

**S X O 6** (図4 3、表1 6)

S X O 6はE 9、F 9区で検出した。S I O 4の南側壁際にあり、遺構確認面で南北 1.0m、東西 1.2mの楕円形、底部で直径2.0mほど、深さ1.3~1.4mを測る。S I O 4よりも古い遺構である。

縄文時代のフラスコ状ピットと思われるが、出土遺物は無く礫片が散出したのみであったため、時代判定は行えなかった。

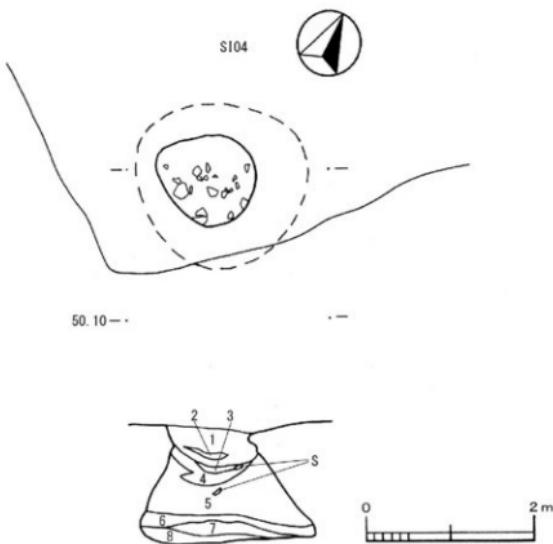


図4 3. S X O 6遺構平面図

#### 北側斜面（図44、表17、写真2）

調査区の北・西側の斜面についてトレンチによる調査を実施した。

西側の斜面（E6区南側）については、地山層上を表土が覆っている状態であり、遺構等も全く検出できなかつたため、本報告では割愛する。

一方、北側斜面（D8区西側）については、調査区上面の平場肩の落ち際部分で深さ0.7m、底部幅0.6mほどの溝状の掘り込みと、斜面下部で深さ1.0m、底部幅1.1mほどの箱築研状の溝と思われる掘り込みを確認した。

これらの遺構については、出土遺物もなく時期も不明であるが、斜面を覆う覆土直下からの掘り込みであることから、近現代の農耕によるもの（水田の用水路等）とは思われず、丘陵上の平安時代の遺構との関連、もしくは、中世の源常館との関連が考えられるものである。

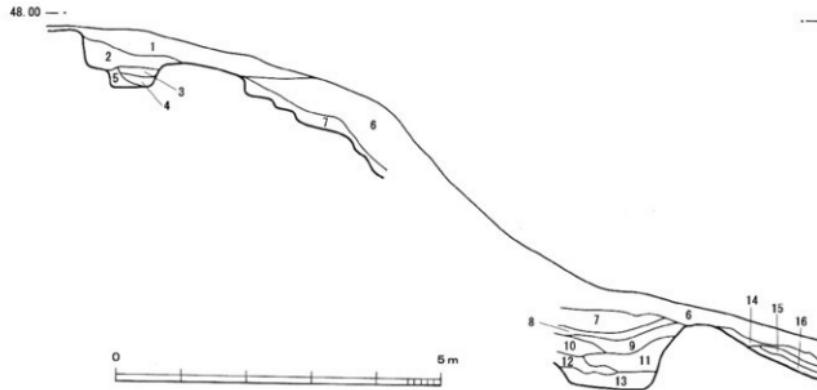


図44. 北側斜面層序図

### 遺構外出土遺物

調査段階で、覆土等の遺構外から出土した遺物を以下に報告する。

#### 縄文時代の出土遺物（図4-5、表1、写真1-2）

縄文時代後期・晩期の土器、石器等が出土している。土器は、斜縄文を施した上に沈線で文様を描いた後期の深鉢（120・121）、幾何学的な文様を隆帯により施し、隆帯上に刺突を施したもの（122）、土器軸用の円形土製品（123）、晩期の波状口縁を持つ浅鉢（125）・浅鉢もしくは広口壺（124）が出土している。石器は、珪岩製（126）、石鏃（127～130）が出土している。石鏃の計測値は下記（表1）に示した。

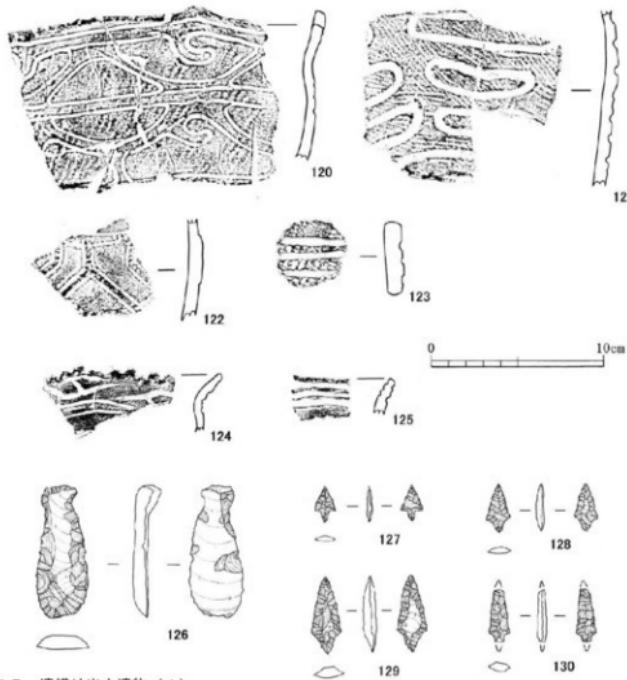


図4-5. 遺構外出土遺物（1）

表1・出土石鏃計測表（単位：mm、g）

遺物番号	長さ	幅	重量	備考
127	18.8	12.3	0.40	珪質頁岩製。両面の基部にアスファルト付着
128	27.3	13.7	1.03	珪質頁岩製。片面の前面にアスファルト付着
129	43.4	16.7	4.09	珪質頁岩製。一部に自然面が残る
130	(30.4)	11.9	1.48	珪質頁岩製。先端と基部が欠損している

平安時代以降の出土遺物（図4.6、写真1.3）

土師器坏（131・132）はロクロ成形で静止糸切底を持つもので、（132）については成形時にゆがみが生じているものである。ほかに把手付土器（133）、中世陶磁（中国染付皿）（134）、無文銭（鍾銭）（135・136）が出土している。石製品では、白色凝灰岩を加工した陽物状石製品（137）、6～7面を用いた砥石（138）などが出土している。

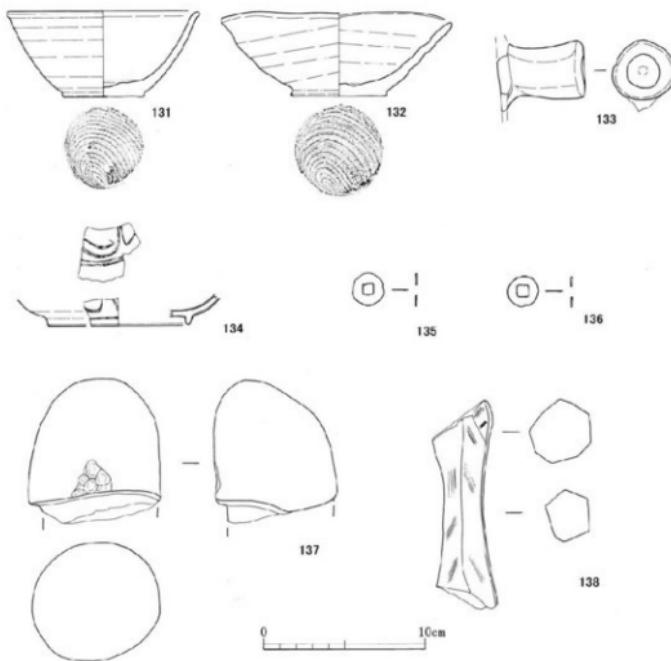


図4.6. 遺構外出土遺物（2）

表2. S101土層注記表（図4対応）

1	暗褐色土 10YR3/3 に灰白色バミス 10YR8/1 を極小～中粒状に 2%、小～中粒状の繭を 3% 含む。
2	黒褐色土 10YR2/3 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を極小～中粒状に 3%、褐色粘土 10YR4/4 を小～中粒状に 2%、小～中粒状の炭化物を 1%、小～大粒状の繭を 3% 含む。
3	黒褐色土 10YR3/2 に極小～中粒状の炭化物を 1% 含む。
4	黒褐色土 10YR2/3 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を極小～中粒状に 5%、褐色粘土 10YR4/4 を小～中粒状に 2%、にぶい黄褐色粘土 10YR5/4 を中粒状に 2%、明赤褐色粘土 5YR5/8 を小粒状に 1%、小粒状の炭化物を 2%、小～中粒状の繭を 2% 含む。
5	黒褐色土 10YR2/3 に褐色粘土 10YR4/4 を小～大粒状に 10%、小粒状の炭化物を 1%、明黄褐色砂質土 10YR6/8 を小～中粒状に 2%、小～中粒状の繭を 2% 含む。
6	褐色粘土 10YR4/4 に黒褐色土 10YR2/3 を極小～中粒状に 10% 含む。
7	黒褐色土 10YR2/3 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を極小～中粒状に 30%、にぶい黄褐色粘土 10YR5/4 を小粒状に 1% 含む。
8	暗褐色土 10YR3/3 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を中板状に層上部に 10%、にぶい黄褐色灰 10YR5/4 を極小～中粒状に 3%、灰黃褐色灰 10YR5/2 を層下部に 10% 含む。
9	黒褐色土 10YR2/3 と明黄褐色砂質土 10YR6/8 の 7:3 の混層。
10	にぶい黄褐色灰 10YR5/4 と灰黃褐色灰 10YR5/2 の 5:5 の混層。
11	黒褐色土 10YR2/3 と明黄褐色砂質土 10YR6/8 の 6:4 の混層。
12	暗褐色土 10YR3/3 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を極小～大粒状に 30%、褐色粘土 10YR4/4 を中粒状に 10%、にぶい黄褐色灰 10YR5/4 を中粒状に 10%、小粒状の繭を 3% 含む。
13	明黄褐色砂質土 10YR6/8。
14	黒褐色土 10YR2/3 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を大塊状に 2%、褐色粘土 10YR4/4 を中粒状に 2%、極小～中粒状の炭化物を 1% 含む。
15	黒褐色土 10YR2/3 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を小～中塊状に 20% 含む。
16	黒褐色土 10YR2/3 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を極小粒状に 40% 含む。
17	明黄褐色砂質土 10YR6/8 に黒褐色土 10YR2/3 を極小～中粒状に 10% 含む。
18	にぶい黄褐色土 10YR4/3 ににぶい黄褐色粘土 10YR5/4 を 15%、小粒状の繭を 3% 含む。しまり強い。
19	明黄褐色砂質土 10YR6/8。
20	明黄褐色砂質土 10YR6/8 に黒褐色土 10YR2/3 を極小～中粒状に 5% 含む。

表3. S102土層注記表（図6対応）

1	暗褐色土 10YR3/3 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を小～中粒状に 3%、梅灰色バミス 10YR6/1 を極小粒状に 2%、小～中粒状の繭を 3% 含む。
2	暗褐色土 10YR3/3 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を極小～大粒状に 7%、黄橙色粘土 7.5YR7/8 を中粒状に 1%、極小～小粒状の炭化物を 1%、小～中粒状の繭を 3% 含む。
3	暗褐色土 10YR3/3 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を小～大粒状に 5%、小粒状の炭化物を 1%、小粒状の繭を 1% 含む。
4	黒褐色土 10YR3/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を中～大塊状に 2%、黄橙色粘土 7.5YR7/8 を小粒状に 1%、小粒状の繭を 2% 含む。
5	黄褐色砂質土 10YR5/6。
6	黒褐色土 10YR3/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を中板状に 20%、中～大粒状の繭を 5%、小粒状の炭化物を 2% 含む。しまり強い。
7	暗褐色土 10YR3/3 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を小～大粒状に 15%、小～中粒状の繭を 3% 含む。
8	暗褐色土 10YR3/3 と黄褐色砂質土 10YR5/6 の 5:5 の混層。
9	黒褐色土 10YR2/2 に極小～大粒状の炭化物を 40% 含む。
10	黄褐色砂質土 10YR5/6 と暗褐色土 10YR3/3 の 8:2 の混層。
11	黄褐色砂質土 10YR5/6 に暗褐色土 10YR3/3 を薄板状に 2% 含む。

表4. S103・O4土層注記表（図8・9対応）

1	黒褐色土 10YR3/2 に灰黄色粉状の塊（農薬か？）2.5Y7/2 を極小～小粒状に 60% 含む。
2	黒褐色土 10YR3/2。
3	黒褐色土 10YR3/2 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を極小～小粒状に 2%、小～大粒状の繭を 3% 含む。
4	黒褐色土 10YR2/1 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を極小粒状に 1% 含む。
5	黒褐色土 10YR3/2 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を小～極大粒状に 7%、小～大粒状の繭を 3% 含む。
6	黒褐色土 10YR3/2 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を極小～中塊状に 15%、灰黃褐色粘土 10YR6/2 を中粒状に 2%、小～中

	粒状の繩を3%含む。
7	黒褐色土 10Y R3/2 に明黄褐色砂質土 10Y R6/8 を極小～小粒状に15%、灰黄褐色粘土 10Y R6/2 を中粒状に2%含む。
8	黒褐色土 10Y R3/2 に明褐色粘土 7.5Y R5/8 を中塊状に1%、赤褐色粘土 5Y R4/8 を極小～小粒状に1%含む。
9	黒褐色土 10Y R3/2 に明黄褐色砂質土 10Y R6/8 を極小～小粒状に3%、小粒の繩を2%含む。
10	黒褐色土 10Y R3/2 に明黄褐色砂質土 10Y R6/8 を極小～小粒状に3%、小粒の繩を2%含む。
11	黒褐色土 10Y R3/2 に明黄褐色砂質土 10Y R6/8 を中～大粒状に10%、小～中粒状の繩を3%含む。
12	明黄褐色砂質土 10Y R6/8。
13	黒褐色土 10Y R3/2 に黄褐色砂質土 10Y R5/8 を極小粒状に2%含む。
14	黒褐色土 10Y R2/2 に黄褐色砂質土 10Y R5/8 を極小粒状に1%、小～中粒状の繩を2%含む。
15	黒褐色土 10Y R3/2 と黄褐色砂質土 10Y R5/8 の5:5の混層。
16	黒褐色土 10Y R3/2 に明黄褐色砂質土 10Y R6/8 を中～大粒状に10%、小～中粒状の繩を3%含む。
17	黒褐色土 10Y R1/2 に明黄褐色砂質土 10Y R6/8 を小～大粒状に7%含む。

表5. S I O 5 土層注記表（図12対応）

1	赤褐色粘土 5Y R6/4 に明黄褐色砂質土 7.5Y R5/6 を極小～大粒状に25%含む。
2	にぶい黄褐色粘土 10Y R5/4。
3	黒褐色土 10Y R2/3 に黄褐色砂質土 10Y R5/8 を極小粒状に2%含む。
4	黒褐色土 10Y R2/2 に黄褐色砂質土 10Y R5/8 を極小粒状に1%、小～中粒状の繩を2%含む。
5	黒褐色土 10Y R2/3 に黄褐色砂質土 10Y R5/8 を極小～中塊状に7%、炭化物を中粒状に1%、小～中粒状の繩を3%含む。
6	黒褐色土 10Y R2/3 に黄褐色砂質土 10Y R5/8 を中塊状に10%、中～大粒状の繩を3%含む。
7	黒褐色土 10Y R2/3 と黄褐色砂質土 10Y R5/8 の5:5の混層。
8	黄褐色砂質土 10Y R5/8。
9	黄褐色砂質土 10Y R5/8 に黒褐色土 10Y R2/2 を極小～中粒状に1%含む。
10	黒褐色土 10Y R3/2 に明黄褐色砂質土 10Y R6/8 を中～大粒状に10%、小～中粒状の繩を3%含む。
11	黒褐色土 10Y R1/2 に明黄褐色砂質土 10Y R6/8 を小～大粒状に7%含む。
12	黒褐色土 10Y R2/3 に黄褐色砂質土 10Y R5/8 を極小～中塊状に7%、炭化物を中粒状に1%、小～中粒状の繩を3%含む。
13	黒褐色土 10Y R2/2 に黄褐色砂質土 10Y R5/8 を極小粒状に1%、明黄褐色粘土 7.5Y R5/6 を中塊状に1%含む。
14	黒褐色土 10Y R2/3 に黄褐色砂質土 10Y R5/8 を中～極大粒状に10%、炭化物を中粒状に2%含む。
15	黒褐色土 10Y R2/3 に黄褐色砂質土 10Y R5/8 を小粒状に1%含む。

表6. S I O 6 土層注記表（図14対応）

1	黒褐色土 10Y R2/3 に灰黃色粉状の小粒（農薬か？）2.5Y7/2 を2%含む。
2	黒褐色土 10Y R2/3 に褐色土 10Y R4/6 を中粒状に2%、小～中粒状の繩を3%含む。
3	暗褐色土 10Y R3/4 に黒褐色土 10Y R2/3 を極小～中粒状に5%、中～大粒状の繩を2%含む。
4	暗褐色土 10Y R3/3 ににぶい黄褐色粘土を極小～中粒状に5%、小～中粒状の繩を2%含む。
5	暗褐色土 10Y R3/3 に黄褐色砂質土 10Y R5/6 を大～極大粒状に3%含む。
6	褐色粘土 10Y R4/4。
7	暗褐色土 10Y R3/3 に明黄褐色砂質土 10Y R6/8 を極大粒～中塊状に15%、灰白色バミス 10Y R7/1 を小粒状に1%含む。
8	暗褐色土 10Y R3/3 に明黄褐色砂質土 10Y R6/8 を中粒状に2%含む。
9	暗褐色土 10Y R3/4。

表7. S I O 7 土層注記表（図16対応）

1	黒褐色土 10Y R2/3 に明黄褐色砂質土 10Y R7/6 を小～中粒状に2%、小～中粒状の繩を3%含む。
2	黒褐色土 10Y R2/3 に黄褐色砂質土 10Y R5/8 を小～中粒状に3%、小～中粒状の繩を2%含む。
3	黒褐色土 10Y R2/3 に黄褐色砂質土 10Y R5/8 を互層状に40%、中～極大粒状の繩を5%含む。しまり強い。
4	暗褐色土 10Y R3/3 ににぶい黄褐色粘土 10Y R5/4 を大粒状に2%、黄褐色砂質土 10Y R5/6 を極小～中粒状に3%、炭化物を極小～小粒状に1%、小～中粒状の繩を2%含む。
5	赤褐色粘土 5Y R6/4 に明黄褐色粘土 7.5Y R5/6 を小～極大粒状に50%含む。
6	にぶい黄褐色粘土 10Y R5/4。
7	黒褐色土 10Y R2/3 に黄褐色砂質土 10Y R5/8 を極小粒～中塊状に7%、炭化物を中粒状に1%、小～中粒状の繩を3%含む。
8	黒褐色土 10Y R2/3 に黄褐色砂質土 10Y R5/8 を中塊状に10%、中～大粒状の繩を3%含む。
9	黒褐色土 10Y R2/3 に黄褐色砂質土 10Y R5/8 を極小～中塊状に7%、炭化物を中粒状に1%、小～中粒状の繩を3%含む。
10	黒褐色土 10Y R2/2 に黄褐色粘土 10Y R5/6 を大塊状に2%、小粒状に2%、浅黃澄色灰を大塊状に5%、小～大粒状の繩を

	2%含む。
11	黒褐色土 10YR2/3 に黄褐色砂質土 10YR5/8 を極小～中塊状に 7%、炭化物を中粒状に 1%、小～中粒状の礫を 3%含む。
12	黒褐色土 10YR2/2 に黄褐色砂質土 10YR5/8 を極小粒状に 1%、明黄褐色粘土 7.5YR5/6 を中塊状に 1%含む。
13	黒褐色土 10YR2/3 に黄褐色砂質土 10YR5/8 を中～極大粒状に 10%、炭化物を中粒状に 2%含む。
14	黒褐色土 10YR2/3 に黄褐色砂質土 10YR5/8 を小～中粒状に 15%、小～大粒状の礫を 3%含む。
15	黒色土 10YR2/1 に褐色粘土 10YR4/4 を層下部に 30%含む。
16	褐色粘土 10YR4/4 と黒色土 10YR2/1 の 8:2 の混層。
17	褐色粘土 10YR4/4。
18	灰色灰 5Y4/1 と黒褐色土 10YR2/2 の 5:5 の混層。
19	黒褐色土 10YR2/2 に橙色粘土 7.5YR6/8 を中粒状に 3%、黄褐色砂質土 10YR7/8 を極小～中粒状に 2%、炭化物を極小～中粒状に 1%含む。
20	にぶい黄褐色粘土 10YR5/4。
21	暗褐色土 10YR3/3 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を極小粒状に 2%含む。
22	黄褐色砂質土 10YR5/6。
23	黒褐色土 10YR2/3 に黄褐色砂質土 10YR5/8 を小粒状に 1%含む。

表8. S I 1 0 土層注記表（図22対応）

I	黒暗褐色土 10YR2/2 の單層。耕作土。
II	黒褐色土 10YR2/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を小～中粒状に 15%含む。
1	黒色土 7.5YR2/1 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を小粒状に 2%、小～大粒状の炭化物を 2%含む。ややしまり強い。
2	黒褐色土 10YR2/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 の 5:5 の混層。
3	黒色土 10YR1.7/1 と黒褐色土 10YR2/2 の 2:8 の混層に、明黄褐色砂質土 10YR6/6 を極小～中粒状に 1%含む。
4	黒褐色土 10YR2/2 と明黄褐色砂質土 10YR6/6 の 6:4 の混層。
5	黒褐色土 10YR2/2 に黄褐色砂質土 10YR8/8 を極小～中粒状に 5%含む。
6	黒褐色土 10YR3/2 ににぶい赤褐色粘土 5YR4/4 の 5:5 の混層。
7	黒褐色土 10YR3/2 に極小粒状の炭化物を 2%含む。
8	黒暗褐色土 10YR2/2。
9	黒暗褐色土 10YR2/2 と黄褐色砂質土 10YR5/6 の 5:5 の混層。炭化物が層下部に多く含まれる。
10	黒褐色土 7.5YR2/2 と黄褐色砂質土 10YR5/6 との 7:3 の混層に、にぶい黄褐色粘土 10YR4/3 を大粒状に 1%含む。
11	明黄褐色粘土 10YR6/6。
12	炭化物のブロック。
13	明黄褐色粘土 7.5YR5/8。
14	明黄褐色粘土 10YR6/6。
15	黒褐色土 7.5YR1/3。
16	暗褐色土 10YR3/3 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を極小粒状に 5%含む。
17	暗褐色土 10YR3/3。
18	炭化物と黒色灰 5YR2/1 の 5:5 の混層。
19	黄褐色粘土 10YR5/6。
20	黒褐色土 10YR3/2。
21	暗褐色土 10YR3/3。
22	黒褐色土 10YR3/2。
23	黄褐色砂質土 10YR7/8。
24	明黄褐色粘土 10YR6/6。

表9. S I 1 1 土層注記表（図24対応）

I	黒暗褐色土 10YR2/2 の單層。耕作土。
II	黒褐色土 10YR2/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を小～中粒状に 15%含む。
III	黒褐色土 10YR2/1 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を小～中粒状に 5%含む。
1	灰色シルト 10YR8/1 (耕作業に作うものか?)。
2	黒褐色土 10YR2/1 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を大ブロック状に 1%、大粒状の小石を 2%含む。
3	黒褐色土 10YR3/2 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を極大粒状に 25%含む。
4	橙色粘土 7.5YR6/6 に炭化物を小粒状に 1%含む。
5	黒褐色土 10YR2/1 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を極小粒状に 1%含む。
6	黒褐色土 10YR3/2 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を小～大粒状に 3%含む。

7	黒褐色土 10YR3/2 に明黄褐色砂質土 10YR6/8 を小～大粒状に 3% 含む。
8	灰色シルト 5Y6/1。肥料の可能性もある。

表 10. S I 1 2 土層注記表 (図 26 対応)

I	黑暗褐色土 10YR2/2 の単層。耕作土。
II	黒褐色土 10YR2/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を小～中粒状に 15% 含む。
1	黒褐色土 10YR3/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 が大粒状に 3% 含まれる。
2	黒色土 7.5YR2/1 に褐色土 10YR4/4 が極大粒状に 15% 含まれる。
3	黒褐色土 10YR2/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 が大～極大粒状に 20% 含まれる。
4	黄褐色砂質土 10YR5/6 と黒色土 7.5YR1.7/1 との 7:3 の混層。

表 11. S D O 1 土層注記表 (図 28 対応)

1	黒色土 5YR2/1 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を小粒状に 2%、小～大粒状の炭化物を 2% 含む。ややしまり強い。
2	黒褐色土 10YR2/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 との 5:5 の混層。
3	黒色土 10YR1.7/1 と黒褐色土 10YR2/2 の 2:8 の混層に、明黄褐色砂質土 10YR6/6 を極小～中粒状に 1% 含む。

表 12. S X O 1 土層注記表 (図 30 対応)

1	黒褐色土 10YR3/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を小～中粒状に 30%、小～中粒状の繩を 2% 含む。
2	黒褐色土 10YR2/2 に赤褐色粘土 10YR4/8 を中粒状に 1%、小～中粒状の繩を 1%、小～中粒状の炭化物を 1%、黄褐色砂質土 10YR5/6 を極小粒状に 1% 含む。
3	黒褐色土 10YR3/2 に中～大粒状の繩を 1% 含む。
4	黒褐色土 10YR3/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を小～極大粒状に 15%、小～中粒状の繩を 3% 含む。
5	黒褐色土 10YR2/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を大粒～塊状に 20%、小～中粒状の繩を 1% 含む。しまり強い。
6	黒褐色土 10YR3/2 と黄褐色砂質土 10YR5/6 の 5:5 の混層。しまり強い。

表 13. S X O 2 土層注記表 (図 34 対応)

1	黒褐色土 10YR2/3 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を極小～中粒状に 3% 含む。
2	黒褐色土 10YR2/3 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を小～極大粒状に 2%、明褐色粘土 7.5YR5/6 を大粒状に 2%、炭化物を小～中粒状に 1% 含む。
3	黒褐色土 10YR2/3 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を小～大粒状に 1%、小～大粒状の繩を 1% 含む。
4	黒褐色土 10YR2/3 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を小～大粒状に 20%、褐色粘土 7.5YR4/6 を中粒状に 1% 含む。
5	黒褐色土 10YR2/3 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を極小～大粒状に 7%、小～中粒状の炭化物を 1%、小～中粒状の繩を 2% 含む。
6	黒褐色土 10YR2/3 に褐色粘土 7.5YR4/6 を大塊状に 50% 含む。
7	黒褐色土 10YR2/3 に褐色粘土 7.5YR4/6 を中～大粒状に 1%、小～中粒状の炭化物を 2% 含む。
8	黒褐色土 10YR2/3 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を厚い板状に 15%、小～中粒状の繩を 1% 含む。
9	黄褐色砂質土 10YR5/6 に黒褐色土 10YR2/3 を小～大粒状に 2% 含む。
10	黒褐色土 10YR2/2 に赤褐色粘土 10YR4/8 を中粒状に 1%、小～中粒状の繩を 1%、小～中粒状の炭化物を 1%、黄褐色砂質土 10YR5/6 を極小粒状に 1% 含む。

表 14. S X O 3 土層注記表 (図 36 対応)

1	暗褐色土 10YR3/3 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を大粒状に 10% 含む。
2	黒褐色土 10YR2/2 にぶい黄褐色粘土 10YR5/3 を大粒状に 1% 含む。
3	黒褐色土 10YR2/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 と炭化物を小～大粒状に 2% 含む。
4	黒色土 10YR2/1。
5	黒褐色土 10YR2/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 と炭化物を小～大粒状に 5% 含む。
6	黒褐色土 10YR3/1 と黄褐色砂質土 10YR5/6 との 5:5 の混層。

表 15. S X O 5 土層注記表 (図 41 対応)

1	黒褐色土 10YR3/2 に明黄褐色粘土 10YR6/8 を極大粒状に 1% 含む。
---	--

2	黒褐色土 10YR3/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を極小粒状に 10% 含む。
3	黒褐色土 10YR3/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を極小～大粒状に 15%、小～大粒状の繩を 2%、極小～中粒状の炭化物を 1% 含む。
4	黄褐色砂質土 10YR5/6 と黒褐色土 10YR3/2 の 6:4 の混觸。
5	暗褐色土 10YR3/3 に高い黄褐色粘土 10YR5/4 を大粒状に 2%、黄褐色砂質土 10YR5/6 を極小～中粒状に 3%、炭化物を極小～小粒状に 1%、小～中粒状の繩を 2% 含む。

表 16. SXO6 土層注記表（図 4-3 対応）

1	黒褐色土 7.5YR2/1 に褐色砂質土 7.5YR4/4 を小～大粒状に 3% と中粒状の炭化物を 5% 含む。
2	褐色砂質土 7.5YR4/6 に大粒状の炭化物を 1% 含む。
3	黒褐色土 7.5YR2/2 と褐色砂質土 7.5YR4/6 の 8:2 の混層に、大粒状の炭化物を 2% 含む。
4	黒褐色土 7.5YR2/1 に褐色砂質土 7.5YR4/4 を小～大粒状に 7% と中粒状の炭化物を 7% 含む。
5	黒褐色土 10YR1.7/1 に褐色砂質土 10YR4/6 を極小～大粒状に 7%、炭化物を極小粒状に 10%、褐色粘土 10YR4/4 を極大粒状に 1% 含む。
6	黒褐色土 10YR1.7/1 に褐色砂質土 10YR4/6 を 3% と、炭化物を小～極大粒状に 30% 含む。
7	黒褐色土 10YR2/1 と褐色砂質土 10YR4/4 の 7:3 の混層に炭化物を大粒状に 2% 含む。
8	黒褐色土 10YR2/1 と褐色砂質土 10YR4/4 の 7:3 の混層に小～大粒状の小石を含む。しまり強い。

表 17. 北側斜面土層注記表（図 4-4 対応）

1	黒褐色土 7.5YR2/2 に明黃褐色砂質土 7.5YR5/6 を極小粒状に 1% 含む。
2	黒褐色土 10YR2/3 に明黃褐色砂質土 7.5YR5/6 を極小粒状に 1%、極小～中粒状の繩を 1% 含む。
3	黒褐色土 7.5YR2/2 に明黃褐色砂質土 7.5YR5/6 を極小粒状に 2% 含む。
4	黒褐色土 7.5YR2/2 に明黃褐色砂質土 7.5YR5/6 を極小粒状に 40% 含む。しまり強い。
5	黒褐色土 7.5YR2/2 に明黃褐色砂質土 7.5YR5/6 を極小粒状に 15% 含む。
6	黒色土 10YR2/1。
7	明黃褐色砂質土 10YR6/6 に黒色土 10YR2/1 を極小～中粒状に 25% 含む。
8	黒色土 10YR1.7/1。
9	黒色土 10YR2/1 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を極小～中粒状に 20%、小粒状の繩を 3% 含む。
10	黄褐色粘土 10YR5/8 に黒色土 10YR2/1 を 10% 含む。
11	黒褐色土 10YR3/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を極小粒状に 10%、小～大粒状の繩を 3%、極小～小粒状の炭化物を 1% 含む。
12	黄褐色粘土 10YR5/8 に黒褐色土 10YR3/2 を極小～中粒状に 15%、黒色土 10YR1.7/1 を極小～中粒状に 2%、中粒状の繩を 2% 含む。しまり強い。
13	黒褐色土 10YR3/2 に黄褐色砂質土 10YR5/6 を極小～大塊状に 25%。黄褐色粘土 10YR5/8 を中粒状に 10%、小～大粒状の繩を 5% 含む。しまり強い。
14	黄褐色砂質土 10YR5/6 に黒褐色土 10YR3/2 を極小～大粒状に 30% 含む。
15	黒色土 7.5YR2/1。
16	暗褐色土 10YR3/4 に黒褐色土 10YR3/2 を極小～大粒状に 5% 含む。

## 第4章　まとめ

今回の調査は、過去の調査（昭和52年度：青森県教育委員会実施）で確認できなかつた、中世城館の「源常館」に関する遺構、痕跡が確認できるのではないかとの期待をもって臨んだ。

しかし、結果は耕作による削平や搅乱が著しいこともあつたが、中世城館に伴うと考えられる遺構は確認できず、また、遺物の面からも、明確に15～16世紀と思われるものは、染付皿及び銭貨程度であった。

したがつて、現状では、源常平遺跡が以前の調査同様に绳文時代後期から晩期及び平安時代の集落跡と解することが妥当であり、中世城館の「源常館」は所在も縄張りも確認できるものではない。

ただし、町指定文化財となつている「（珠洲）波状文四耳壺」が当遺跡からの出土（出土箇所は明確になつてない）と伝えられることや、今回の調査において時代は不明であるが釘隠しに用いる「六葉」または銅鏡状を呈する銅製品の出土など、源常平遺跡が単なる集落という性格にとどまらず、城館以外であつたとしても、住居以外の何らかの施設が設けられていた可能性も推定される。

今後、県調査地区（東北自動車道敷地）と本調査区の間に残る「空堀」周辺を含め、遺跡の発掘調査を行えれば、全体像を解明できる機会となると思われる。

## 参考・引用文献

『青森県埋蔵文化財調査報告書第39集 源常平遺跡発掘調査報告書』 1978 青森県教育委員会

発掘調査抄録

ふりがな	げんじょうたいいせきはっくつちょうさほうこくしょ						
書名	源常平遺跡発掘調査報告書						
副書名	一個人住宅建築に係る緊急発掘調査一						
巻次							
シリーズ名	浪岡町埋蔵文化財緊急発掘調査報告書						
シリーズ番号	第15集						
執筆者名	木村浩一						
編集機関	浪岡町教育委員会						
所在地	038-1311 青森県南津軽郡浪岡町大字浪岡字福村101-1 tel.0172-62-3004						
発行年月日	2005年3月31日						
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査面積	調査期間	調査原因
源常平遺跡	浪岡町大字北 中野字下沢田	中野 229	道跡番号 29027	40° 41' 44"	140° 37' 20"	900 m <sup>2</sup> ~	1992年4月27日 ~ 1992年7月10日
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
源常平遺跡	散布地	縄文(後・続) 時代、平安時代	建物跡・溝跡ほか	縄文土器・縄文石器・土師器・須恵器・土偶・石製品・銅製品・など			

写真1. 調査状況・遺構完掘状況



調査開始時状況（東から）



遺構精査状況（南から）



調査状況（表層直下遺物出土状況）



S I O 2（奥）・S X O 3（手前）完掘状況（南から）



S I O 3・O 4 完掘状況（東から）



S I O 3・O 4 完掘状況（西から）



S I O 6 完掘状況（北から）



S I O 6 完掘状況（西から）

写真2. 遺構完掘状況



S I O 5・O 7 完掘状況（西から）



S I O 8 完掘状況（西から）



S D O 1 完掘状況（北から）



S X O 4 完掘状況（南から）

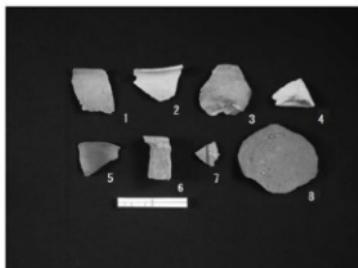


S X O 5 完掘状況（南から）



北側斜面調査状況（斜面下部）

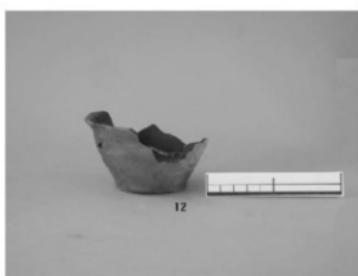
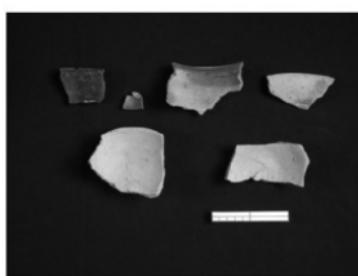
写真3. 積穴住居跡出土遺物



S101出土遺物



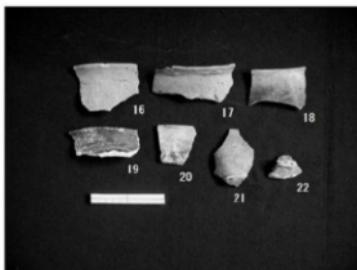
S102出土遺物



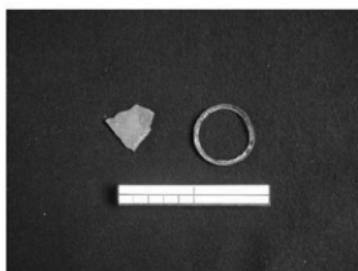
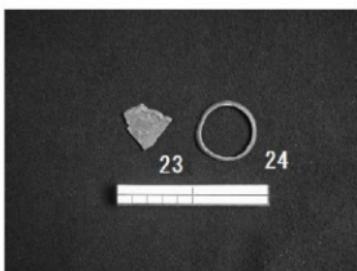
S102出土遺物



写真4. 積穴住居跡出土遺物



S103・04出土遺物

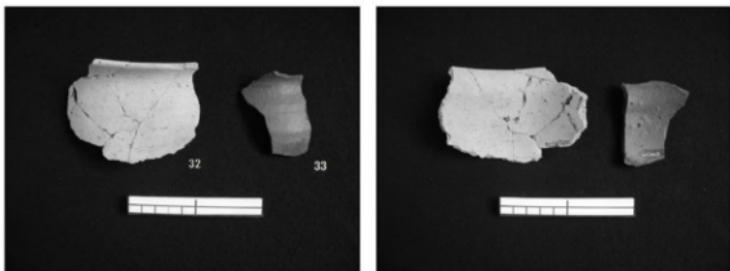


S103・04出土遺物

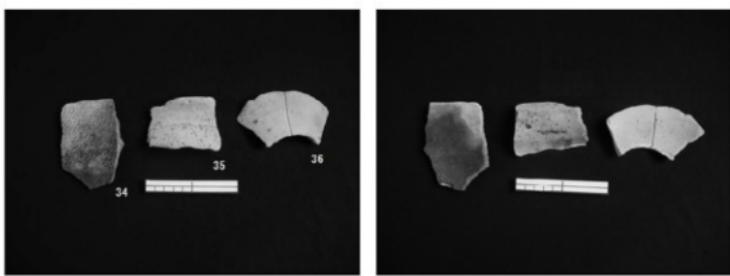


S103・04出土遺物

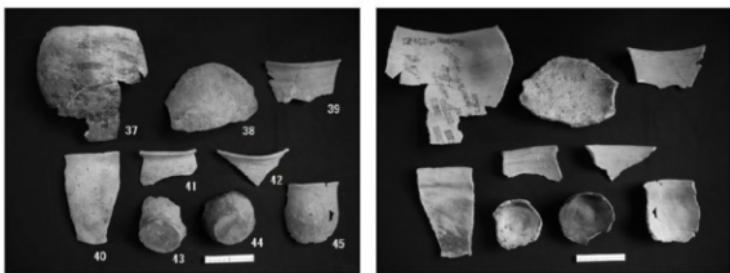
写真5. 穹穴住居跡出土遺物



S I O 5 出土遺物



S I O 6 出土遺物

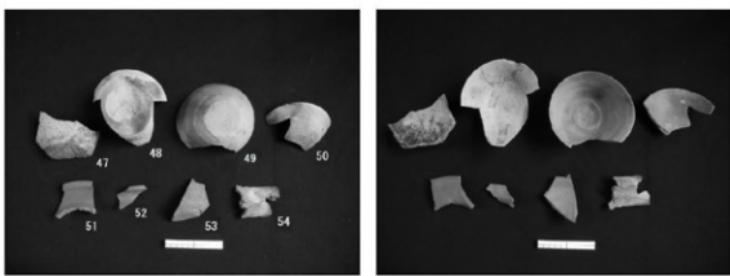


S I O 7 出土遺物

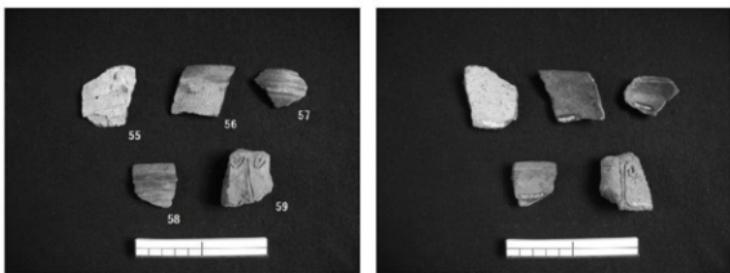
写真6. 積穴住居跡出土遺物



S 107出土遺物

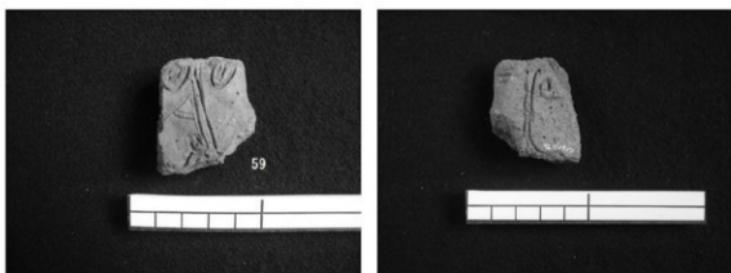


S 107出土遺物

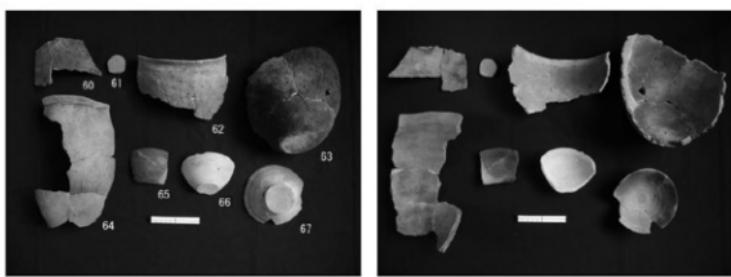


S 107出土遺物

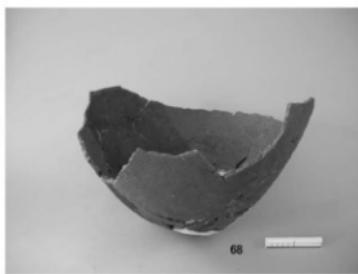
写真7. 積穴住居跡出土遺物



S I 0 7 出土遺物



S I 1 0 出土遺物

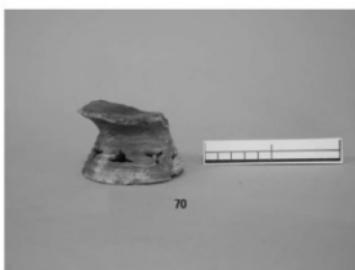


S I 1 0 出土遺物

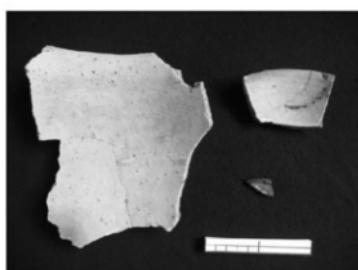
写真8. 積穴住居跡出土遺物



S I 1 1 出土遺物

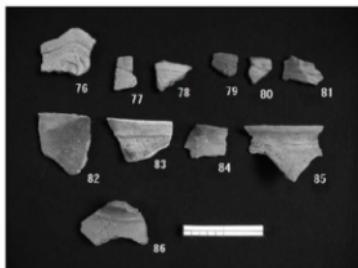


S I 1 1 出土遺物

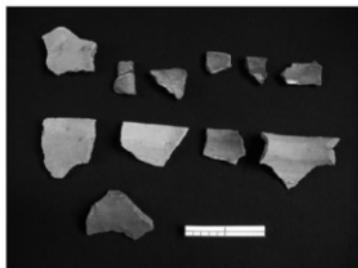


S I 1 2 出土遺物

写真9. 溝跡・性格不明遺構出土遺物



S D O 1 出土遺物



S D O 1 出土遺物



S X O 1 出土遺物



S X O 1 出土遺物



S X O 1 出土遺物

写真 10. 性格不明遺構出土遺物



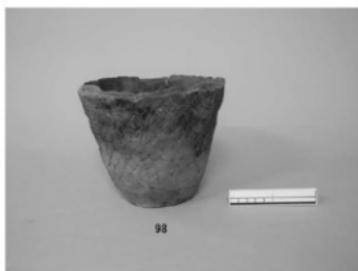
S X O 2 出土遺物



S X O 3 出土遺物

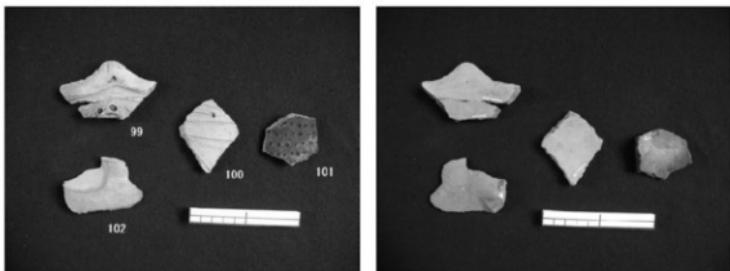


S X O 3 出土遺物

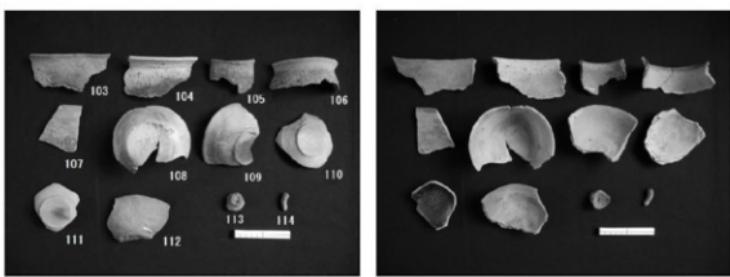


S X O 3 出土遺物

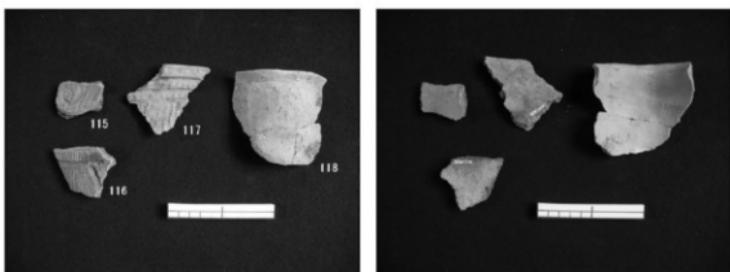
写真 11. 性格不明遺構出土遺物



S X O 3 出土遺物



S X O 3 出土遺物



S X O 4 出土遺物

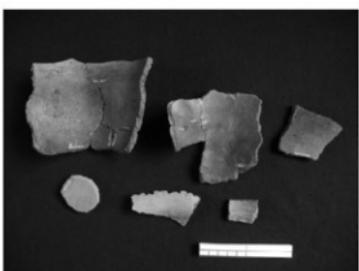
写真12. 性格不明遺構・遺構外出土遺物



S X O 5出土遺物



遺構外出土遺物（縄文土器等）



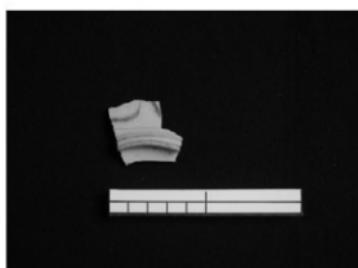
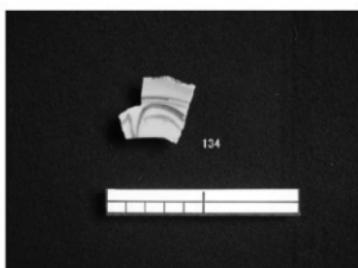
遺構外出土遺物（石器）



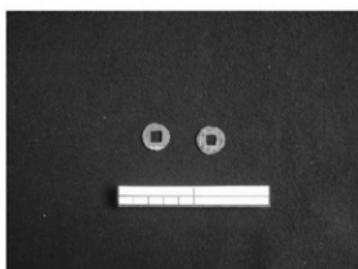
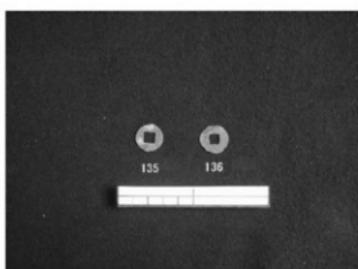
写真13. 遺構外出土遺物



遺構外出土遺物（平安時代～）



遺構外出土遺物（中世陶磁）



遺構外出土遺物（錢貨）

浪岡町埋蔵文化財緊急調査報告書 第15集

源常平遺跡発掘調査報告書

—個人住宅建築に係る緊急発掘調査—

発行年月日 平成17年3月31日

発 行 浪岡町教育委員会

〒038-1311 青森県南津軽郡浪岡町大字浪岡字船村101-1

TEL 0172-62-3004

FAX 0172-62-8166